

立川市就職氷河期世代就労支援事
業「シャフト・プログラム」令和4
年度事業評価報告書

株式会社 千正組

1. 「シャフト・プログラム」概要	6
(1) 実施の趣旨	6
(2) 実施主体と連携機関	6
(3) 名称	7
(4) 支援対象者	7
(5) 支援内容	7
①アウトリーチ	8
②相談支援	8
③就職等進路決定にむけた支援	8
④フォローアップ	9
2. 事業の評価	9
3. 令和4年度の実績	10
(1) 事業の周知・広報	11
(2) 相談とシャフト・プログラムの受講者登録	30
(3) 講座一覧・参加者数	31
(4) 伴走支援	41
(5) オンラインでの対応状況	42

(6) 令和4年度KPIの達成状況	42
①KPIの目標値と考え方	42
②令和4年度の達成状況	44
4. 令和4年度事業の分析・評価	47
(1) シャフト・プログラム相談者の特徴	47
①相談者の属性の概況	47
②シャフト・プログラム受講のきっかけと目的	50
③シャフト・プログラム受講者の居住地の特徴	53
(2) 支援（個別相談と講座）の効果	53
①個別相談による支援の評価	53
②講座による支援の評価	55
(3) 就職等進路決定の状況	58
①進路決定の概況	58
②進路決定者の分析	59
③進路決定後のフォロー	62
(4) KPIの達成状況の評価	64
①相談窓口の相談者数	64

②シャフト・プログラムの受講者数（初回の相談の後、個別相談・講座受講といった支援を継続して受けるために登録した者の数）	67
③就職等進路決定者数	68
5. シャフト・プログラム3年間の総括	68
(1) K P I の達成状況	69
(2) シャフト・プログラムの利用者の概況	70
①利用者の属性データ	70
②シャフト・プログラムの利用者像の分析	71
(3) シャフト・プログラムにおける支援	73
①事業の周知広報	73
②初回利用	73
③講座	74
④個別支援	74
⑤オンラインによる支援の効果	76
⑥関係機関及び周辺自治体との連携	78
(4) 就職等進路決定の状況	81
①進路決定の概況	81
②進路決定者の分析	81

③進路決定後のフォロー	83
④スモールビジネスがもたらした効果	84
6. 次年度以降に向けた提案	88
(1) 相談者を増やすために（K P I ①関係）	88
(2) よりよい支援を広げるために（K P I ②関係）	89
①地域の多様なリソースとの連携	89
②利用者への伴走支援	90
③スモールビジネスの支援	90
(3) 利用者にあった進路決定に向けて（K P I ③関係）	91
①立川市及び周辺自治体との連携	91
②立川市及びその周辺地域の団体との連携	91
(4) 今後の他自治体との連携のあり方について	92

別添：2022年度立川市就職氷河期世代就労支援事業評価委員会資料

1. 「シャフト・プログラム」概要

(1) 実施の趣旨

シャフト・プログラムは、立川市が内閣府の地域就職氷河期世代支援加速化交付金を活用して実施する事業である。2019年の骨太の方針の中で言及された就職氷河期世代支援プログラムによれば、いわゆる「就職氷河期世代」とは、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代であり、希望する就職ができず、現在も不本意ながら不安定な仕事についている、無業の状態にあるなど、様々な課題に直面している者がいるとされている。

シャフト・プログラムは、そのような就職氷河期世代で、本人の意向に反して非正規雇用等の不安定な状況に置かれている者の正規雇用等への転換を後押しすることを目的とした事業である。併せて、社会的引きこもり等を含む無業者に、伴走型支援を提供し社会参加や就労を後押しすることで、対象者の職業的自立ならびに地域における企業の雇用確保及び消費活動の活性化など、地域経済全体の好循環につなげることを目指している。

(2) 実施主体と連携機関

シャフト・プログラムは、立川市から、立川市就職氷河期世代就労支援事業として委託を受けた、認定 NPO 法人育て上げネットが実施する事業である。内閣府は、先進的・積極的に就職氷河期世代への支援に取り組む地方公共団体等を支援し、優良事例を横展開するために、令和元年度に「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」を創設した。この交付金を活用し、立川市が実施するのが「立川市就職氷河期世代向け就労支援事業」である。令和3年度に引

引き続き令和4年度も認定NPO法人育て上げネットが当該事業を受託し、「シャフト・プログラム」として実施した。

シャフト・プログラムでは、「立川市子ども・若者支援ネットワーク会議」をベースにした関連機関（ハローワーク、地域若者サポートステーション、医療・福祉関連機関等）と連携し、対象者の発見・誘導・支援・出口・定着をサポートしている。

(3) 名称

「シャフト・プログラム」という名称は、受託団体である認定NPO法人育て上げネットが事業を実施するにあたってつけたものである。シャフトとは、エンジンとタイヤをつなぐものであり、シャフト・プログラムの名称には、対象者の「意欲」を活かせる場につなぐという想いが込められている。

(4) 支援対象者

原則36歳から51歳で、不本意に無業や非正規雇用等の状況にあり、立川市在住・在勤か、ハローワーク立川または立川若者サポートステーション等を利用している人及びその保護者等を支援対象者としている。

(5) 支援内容

シャフト・プログラムは、①支援対象者を事業利用につなげるためのアウトリーチ、②相談支援、③ジョブトレーニングや就職活動サポート、スモールビジネス支援などの就職等進路決定にむけた支援、④フォローアップを支援範囲としている。

①アウトリーチ

いわゆる「家庭訪問」ではなく、保護者等や関係機関への働きかけによって対象者を発見し、事業利用につなげていく活動を行う。

②相談支援

本人や保護者等を対象に、本事業の利用や他の支援機関の利用につなげていくための個別相談を行う。

③就職等進路決定にむけた支援

i) ジョブトレーニング

様々なアクティビティを通じて働く準備を整えるためのプログラムである。簿記、動画編集などのスキル習得に向けた講座やメンタルヘルス改善に資する講座等の各種講座の実施と受講支援、インターンシップなども含まれる。

ii) 就職活動サポート、スモールビジネス支援

本人にとってステップアップとなる就職に向けて、しごと探しや書類作成、面接対策などをサポートする。また、「雇われる」に限らず、対象者の「好き」「得意」をベースにした「小商い（スモールビジネス）」にチャレンジする機会も創出する。

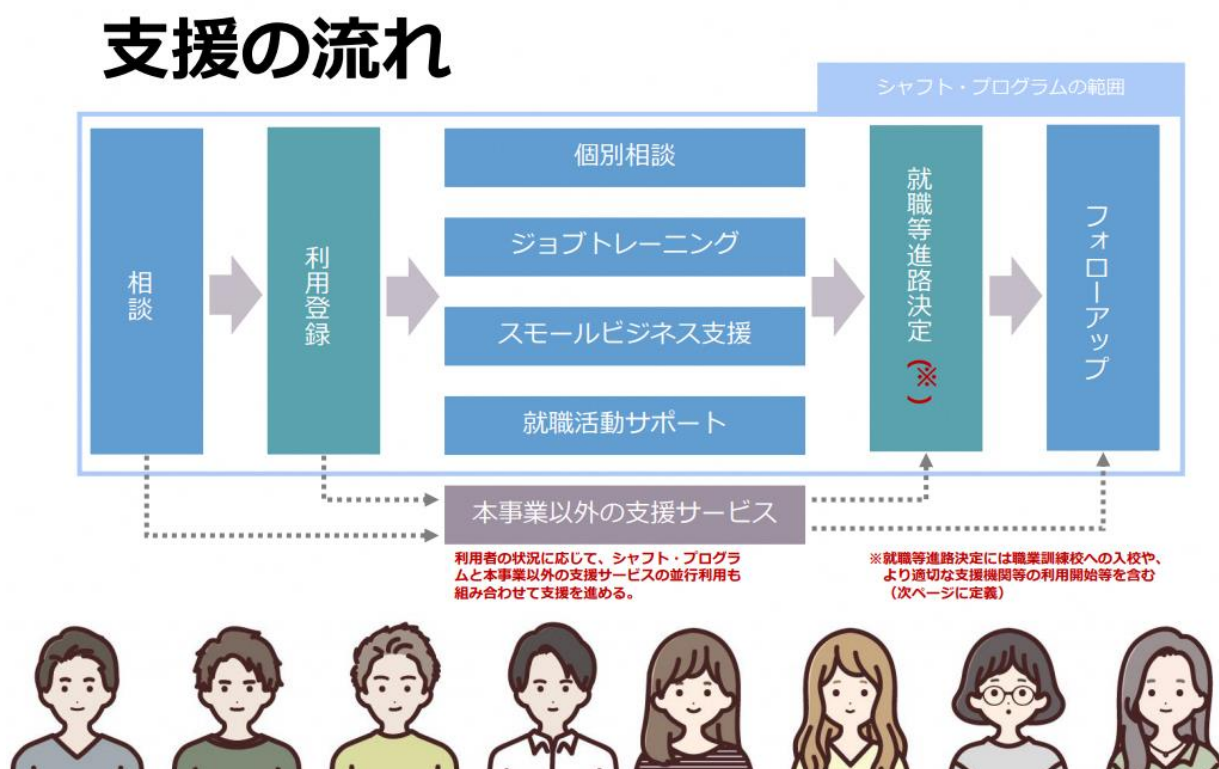
iii) 面談

支援者が担当につき、1対1でオンラインまたは対面で定期的に面談を行う。講座受講の振り返りや就労に向けた目標やアクションの整理、就職活動先のアドバイスなどを行う。

④フォローアップ

就職等が決まった対象者の「定着」「ステップアップ」を様々な形でサポートする。

【図1：支援の流れ】



2. 事業の評価

シャフト・プログラムの実施にあたっては、立川市就職氷河期世代就労支援事業として効果的な実施を確保するため、事業の評価を行い、公表することとしている。

本報告書では、シャフト・プログラムの評価について、以下の情報について匿名化されたものを認定NPO法人育て上げネットから株式会社千正組が提供を受け、これを分析して評価を行う。

ア) シャフト・プログラムの受講者登録時に利用者が記載したインタビュー (n=32)

イ) 支援者が利用者の個別面談等を通じて記載する支援の記録 (n=1427)

ウ) 令和5年2月17日に実施した、シャフト・プログラムの支援者3名に対するヒアリング

エ) 新規相談者数や受講者数など KPI に関するデータや、広報や関係機関との連携に関するデータ、進路決定時期や進路決定先等受講者個人についてのデータ

また、事業の評価に当たっては、立川市就職氷河期世代就労支援事業評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、評価委員会の助言を踏まえて行う。シャフト・プログラムが、行政、就労、福祉、地域の産業界等との連携、オンラインでの実施といった多様な特徴を有することを踏まえ、評価委員会の委員には、多様な分野の専門家が選任されている。

3. 令和4年度の実績

ここでは、シャフト・プログラムの令和4年度の実施内容について、事業の周知・広報から、相談、受講者登録、伴走支援、講座参加、就職等進路決定などの各段階の実績をまとめる。また、シャフト・プログラムの目標として

設定された KPI の達成状況や、シャフト・プログラムの特徴である他機関との連携、オンラインでの支援についての実績もまとめる。

(1) 事業の周知・広報

支援を必要とする人が事業の存在を知り利用につなげていくために、令和 4 年度においてもシャフト・プログラムの周知・広報を積極的に行った（サイトの閲覧数などの実績は表 1 を参照）。

まず、令和 4 年に総合案内 WEB サイトをリニューアルし、シャフト・プログラムの事業内容や利用方法、申し込み方法等についてより分かりやすさ、利用しやすさを意識したものとした。講座開催前には開催講座の案内を令和 4 年度は 140 回掲載（令和 3 年度は 13 回）し、利用者に参加を呼びかけた。

また、プログラム内容の紹介、利用可能な機材、ネット環境、講座受講者のインタビュー、問い合わせ方法等を動画に盛り込んだ当該事業の説明動画を YouTube に昨年度に引き続き掲載している。

さらに、こうしたコンテンツや講座等の情報を広く周知するため、LINE や広報誌を用いた広報活動も行った。公式アカウントに登録した者に対し、利用説明会や講座の日程案内、講座参加を呼びかける投稿を、令和 4 年度は LINE で計 122 回配信（令和 3 年度は 26 回）した。加えて、令和 4 年度は立川市及び周辺自治体へのアプローチを強化するために立川市役所との連携も強化した。10 月 20 日、11 月 10 日に立川市産業振興課との連携のもと、立川市公式 LINE で、相談会のお知らせ配信を行った。その他、ハローワークでチラシを配布した。令和 4 年 8 月 25 日、11 月 20 日、12 月 10 日、自治体の広報誌である「広報たちかわ」において、相談会や講座日程の案内を行った。

連携機関での周知・広報も行なった。

民間企業・団体（業界団体も含む）との情報交換、仕事体験、企業見学、研修の実施は令和4年度は計25回（令和3年度は2回）行った。立川市内では、株式会社 いなげや（スーパーマーケット） や株式会社 壽屋（小売（フィギュア等））、マクドナルド等と協力し、説明会・見学会や職場体験会を実施した。東京都、周辺自治体、立川市内の公共施設など、公団体との連携は令和4年度は計19回（令和3年度は5回）行った。今年度は、ハローワーク立川、立川地域ケア会議（立川市の地域包括支援センター職員が参加）、たかまつ地域包括支援センターなどの機関を訪問し、シャフト・プログラムについて説明、利用者のつなぎなどを依頼した。

【表1-1：令和4年度周知広報一覧：HP掲載、SNS発信など】

実施日	実施形態	実施内容	閲覧数等
2022/4/18	HP 掲載	お仕事のリアル講座案内	
2022/4/22	HP 掲載	立川駅前相談案内	
2022/4/27	LINE 配信	オンライン面接対策講座案内	配信数：337
2022/4/27	HP 掲載	オンライン面接対策講座案内	
2022/5/18	HP 掲載	自分の強みを知ろう講座案内	
2022/5/19	LINE 配信	自分の強みを知ろう講座案内	配信数：358
2022/5/24	LINE 配信	ちょこっとはたらく相談案内	配信数：358
2022/5/24	HP 掲載	プログラム説明会案内	
2022/5/24	HP 掲載	テレワーク入門案内	
2022/5/24	HP 掲載	マルチワーカーとして働く案内	
2022/5/24	HP 掲載	弱みを強みに変える方法案内	

2022/5/24	HP 掲載	動画編集入門案内	
2022/5/24	HP 掲載	元アナウンサーによる面接での伝え方案内	
2022/5/24	HP 掲載	求人の探し方、履歴書の作り方案内	
2022/5/24	HP 掲載	工作広場案内	
2022/5/24	HP 掲載	工作広場説明会案内	
2022/5/24	HP 掲載	お仕事のリアル～自分の強みの見つけ方を教えてください～案内	
2022/5/24	HP 掲載	40代からはじめるホームページ作成入門講座案内	
2022/5/31	LINE 配信	プログラム説明会、工作広場案内	配信数：356
2022/5/1	LINE 配信	求人の探し方、履歴書の作り方案内	配信数：354
2022/6/3	LINE 配信	テレワーク入門案内	配信数：351
2022/6/4	LINE 配信	元アナウンサーによる面接での伝え方講座案内	配信数：350
2022/6/10	LINE 配信	駅前ちょこっと相談案内	配信数：356
2022/6/11	LINE 配信	お詫び・訂正	配信数：365
2022/6/13	LINE 配信	マルチワーカーとして働く案内	配信数：354
2022/6/15	LINE 配信	工作広場説明会案内	配信数：354
2022/6/15	LINE 配信	マルチワーカーとして働く案内	配信数：354
2022/6/23	HP 掲載	動画編集のお仕事のリアル	
2022/6/23	HP 掲載	プログラム説明会	

2022/6/23	HP 掲載	WEB 入門	
2022/6/23	HP 掲載	テレワーク入門	
2022/6/23	HP 掲載	面接対策講座	
2022/6/23	HP 掲載	工作広場～クリップづくり～	
2022/6/23	HP 掲載	VBA（プログラミング）入門	
2022/6/23	HP 掲載	職業人講話・お仕事のリアル	
2022/6/23	HP 掲載	工作広場	
2022/6/23	HP 掲載	7月ちょこっと「はたらく」相談	
2022/6/23	HP 掲載	40歳からのいまさら聞けない敬語とクッション言葉	
2022/6/23	HP 掲載	あなたが大切にしている仕事の価値観とは講座案内	
2022/7/12	LINE 配信	面接対策講座案内	配信数：381
2022/7/13	LINE 配信	工作広場案内	配信数：413
2022/7/14	LINE 配信	VBA 入門案内	配信数：408
2022/7/15	LINE 配信	40歳からのいまさら聞けない講座案内	配信数：406
2022/7/19	LINE 配信	ちょこっと相談案内	配信数：402
2022/7/22	LINE 配信	あなたにとっての仕事の価値観講座案内	配信数：403
2022/7/25	HP 掲載	40歳からのいまさら聞けない講座案内	
2022/7/25	HP 掲載	8月ちょこっと「はたらく」相談案内	
2022/7/25	HP 掲載	スモールビジネス情報交換会案内	

2022/7/25	HP 掲載	「Canva」を使ってデザインしよう案内	
2022/7/25	HP 掲載	魅力的な自己 PR の作成案内	
2022/7/25	HP 掲載	工作広場案内	
2022/7/25	HP 掲載	心のスキルアップ案内	
2022/7/25	HP 掲載	クイズで学ぶマナー講座案内	
2022/7/25	HP 掲載	スモールビジネス紹介案内	
2022/7/25	HP 掲載	プログラム説明会案内	
2022/7/28	LINE 配信	プログラム説明会案内	配信数：400
2022/7/30	LINE 配信	スモールビジネス紹介案内	配信数：399
2022/8/1	LINE 配信	クイズで学ぶマナー講座案内	配信数：396
2022/8/3	LINE 配信	工作広場案内	配信数：393
2022/8/3	HP 掲載	9月ちょこっと相談案内	
2022/8/5	LINE 配信	心のスキルアップ案内	配信数：392
2022/8/10	LINE 配信	Canva 講座案内	配信数：391
2022/8/10	HP 掲載	職業人講話音楽業界のお仕事案内	
2022/8/12	LINE 配信	スモールビジネス情報交換会案内	配信数：390
2022/8/13	LINE 配信	ちょこっと相談案内	配信数：389
2022/8/15	LINE 配信	40歳からのいまさら聞けない講座案内	配信数：421
2022/8/17	HP 掲載	9月プログラム説明会案内	
2022/8/17	HP 掲載	心のスキルアップ案内	
2022/8/17	HP 掲載	企業研究の仕方案内	

2022/8/17	HP 掲載	VBA 入門①②案内	
2022/8/17	HP 掲載	クイズで学ぶマナー講座案内	
2022/8/17	HP 掲載	40 歳からのいまさら聞けない講座案内	
2022/8/17	HP 掲載	工作広場	
2022/8/17	HP 掲載	お仕事のリアル案内	
2022/8/17	HP 掲載	スモールビジネス実践編講座案内	
2022/8/17	HP 掲載	動画編集入門講座	
2022/8/20	LINE 配信	職業人講話音楽業界のお仕事案内	配信数：421
2022/8/25	広報たちかわ掲載	ちょこっと出張相談 8 月・10 月日程案内	
2022/8/31	LINE 配信	プログラム説明会案内、工作広場案内	配信数：418
2022/9/2	LINE 配信	心のスキルアップ案内	配信数：418
2022/9/2	LINE 配信	企業研究の仕方案内	配信数：418
2022/9/4	LINE 配信	クイズで学ぶマナー講座案内	配信数：417
2022/9/4	LINE 配信	プログラミング入門案内	配信数：417
2022/9/6	LINE 配信	40 歳からのいまさら聞けない「報連相」案内	配信数：415
2022/9/8	LINE 配信	お仕事のリアル「言いにくいことの伝え方」講座案内	配信数：414
2022/9/12	LINE 配信	スモールビジネス実践講座案内	配信数：414
2022/9/13	LINE 配信	動画編集超入門講座案内	配信数：414

2022/9/22	HP 掲載	無料デザインツール Canva を使ってデザインしてみよう講座案内	
2022/9/22	HP 掲載	プログラム説明会案内	
2022/9/22	HP 掲載	スモールビジネス紹介講座案内	
2022/9/22	HP 掲載	心のスキルアップ講座案内	
2022/9/22	HP 掲載	はじめての求人応募のやり方案内	
2022/9/22	HP 掲載	PC 講座 Excel 基礎/応用講座案内	
2022/9/22	HP 掲載	PC 講座 Word 基礎/応用講座案内	
2022/9/22	HP 掲載	IT の仕事について知ろう	
2022/9/22	HP 掲載	工作広場案内	
2022/9/22	HP 掲載	スモールビジネス情報交換会案内	
2022/9/22	HP 掲載	職業人講話・お仕事のリアル案内	
2022/9/22	HP 掲載	ちょこっと相談案内	
2022/9/22	HP 掲載	スモールビジネス実践編	
2022/9/22	HP 掲載	10 月おすすめ講座特集	
2022/10/6	LINE 配信	スモールビジネス紹介	配信数：415
2022/10/7	LINE 配信	心のスキルアップ	配信数：414
2022/10/9	LINE 配信	はじめての求人応募のやり方	配信数：412
2022/10/11	LINE 配信	PC 講座 Excel 基礎/応用講座案内	配信数：411

2022/10/12	HP 掲載	プログラム説明会お知らせ	
2022/10/12	HP 掲載	コミュニケーションゲーム案内	
2022/10/12	HP 掲載	心のスキルアップ案内	
2022/10/12	HP 掲載	派遣という働き方案内	
2022/10/12	HP 掲載	ココナラをはじめてみよう案内	
2022/10/12	HP 掲載	工作広場案内	
2022/10/12	HP 掲載	おもしろユニークなおしごと 発見案内	
2022/10/12	HP 掲載	朝活案内	
2022/10/13	LINE 配信	IT の仕事について知ろう	配信数：410
2022/10/15	LINE 配信	工作広場	配信数：454
2022/10/17	LINE 配信	スモールビジネス情報交換会	配信数：460
2022/10/18	LINE 配信	スモールビジネス情報交換会 のお詫びと訂正	配信数：457
2022/10/19	LINE 配信	お仕事のリアル案内	配信数：455
2022/10/20	LINE 配信	ちょこっと相談案内	配信数：455
2022/10/20	立川市産業振 興課	立川市 LINE にてシャフトプロ グラムのお知らせ配信（出張 相談）	
2022/10/21	LINE 配信	ちょこっと相談のお詫びと訂 正	配信数：452
2022/10/22	LINE 配信	PC 講座 Word 基礎/応用編案内	配信数：451
2022/10/24	LINE 配信	スモールビジネス実践編案内	配信数：451
2022/10/26	LINE 配信	プログラム説明会案内	配信数：450

2022/10/28	LINE 配信	工作広場案内	配信数：452
2022/10/31	HP 掲載	お仕事のリアル案内	
2022/10/31	HP 掲載	VBA 入門案内	
2022/11/1	LINE 配信	コミュニケーションゲーム案内	配信数：453
2022/11/1	HP 掲載	VBA 入門案内	
2022/11/2	LINE 配信	40歳からのいまさら聞けない 雑談のコツ講座案内	配信数：449
2022/11/3	LINE 配信	心のスキルアップ案内	配信数：448
2022/11/5	LINE 配信	派遣の仕事ってどんな仕事？ 案内	配信数：446
2022/11/7	LINE 配信	「ココナラ」をはじめてみよ う案内	配信数：446
2022/11/7	HP 掲載	11月おすすめ講座	
2022/11/9	LINE 配信	出張相談案内	配信数：447
2022/11/10	広報たちかわ 掲載	「Canva 講座」「出張相談 11 月開催分」	
2022/11/10	立川市産業振 興課	立川市 LINE にてシャフトプロ グラムのお知らせ配信（出張 相談）	
2022/11/12	LINE 配信	おもしろユニークなおしごと 相談案内	配信数：443
2022/11/13	LINE 配信	Canva 講座案内	配信数：442
2022/11/15	LINE 配信	お仕事のリアル案内	配信数：440
2022/11/15	HP 掲載	プログラマーとしゃべろう講 座案内	
2022/11/15	HP 掲載	プログラム説明会	

2022/11/15	HP 掲載	動画編集超入門講座案内	
2022/11/15	HP 掲載	スモールビジネス実践講座案内	
2022/11/15	HP 掲載	心のスキルアップ案内	
2022/11/15	HP 掲載	志望動機作成にチャレンジ案内	
2022/11/15	HP 掲載	おもしろおユニークな仕事発見案内	
2022/11/15	HP 掲載	お仕事のリアル案内	
2022/11/15	HP 掲載	工作広場案内	
2022/11/15	HP 掲載	プログラミングを始めてみよう！案内	
2022/11/15	HP 掲載	お絵描き伝言ゲーム案内	
2022/11/15	HP 掲載	12月おすすめ講座特集	
2022/11/18	LINE 配信	VBA 入門案内	配信数：437
2022/11/27	LINE 配信	Canva 講座案内	配信数：461
2022/11/28	LINE 配信	プログラム説明会	配信数：458
2022/11/29	LINE 配信	プログラマーとしゃべろう講座案内	配信数：458
2022/12/1	LINE 配信	動画編集超入門講座案内	配信数：456
2022/12/2	LINE 配信	スモールビジネス実践編案内	配信数：454
2022/12/3	LINE 配信	心のスキルアップ案内	配信数：453
2022/12/5	LINE 配信	志望動機作成にチャレンジ案内	配信数：453
2022/12/7	LINE 配信	工作広場案内	配信数：453
2022/12/9	LINE 配信	お絵描き伝言ゲーム案内	配信数：454

2022/12/10	広報たちかわ 掲載	「ちょこっと働く相談（出張 相談）12月1月開催分」	
2022/12/10	LINE 配信	おもしろユニークなお仕事発 見！プチ職業人講話	配信数：454
2022/12/12	LINE 配信	職業人講話 お仕事のリアル 案内	配信数：452
2022/12/15	LINE 配信	プログラミングを始めてみよ う案内	配信数：460
2022/12/23	HP 掲載	プログラム説明会	
2022/12/23	HP 掲載	心のスキルアップ案内	
2022/12/23	HP 掲載	プログラミングの勉強方法を 学ぼう	
2022/12/23	HP 掲載	工作広場案内	
2022/12/23	HP 掲載	おもしろユニークなお仕事発 見！プチ職業人講話	
2022/12/23	HP 掲載	派遣のお仕事紹介	
2022/12/23	HP 掲載	プチこころのスキルアップ	
2022/12/23	HP 掲載	イラスト好き仲間で情報交換 会	
2022/12/23	HP 掲載	40歳からのいまさら聞けない 雑談のコツ講座案内	
2022/12/23	HP 掲載	プログラミングを始めてみよ う！案内	
2022/12/23	HP 掲載	1月のおすすめ講座特集	
2022/12/23	HP 掲載	年末年始のお知らせ	
2022/12/24	HP 掲載	システム障害のお知らせ	
2022/12/26	LINE 配信	システム障害のお知らせ	配信数：458

2022/12/27	LINE 配信	年末年始のお知らせ	配信数：485
2023/1/6	LINE 配信	プログラム説明会	配信数：483
2023/1/8	LINE 配信	心のスキルアップ案内	配信数：484
2023/1/9	LINE 配信	工作広場案内	配信数：481
2023/1/10	LINE 配信	プログラミングの勉強方法を学ぼう	配信数：481
2023/1/14	LINE 配信	おもしろユニークなお仕事発見！プチ職業人講話	配信数：484
2023/1/16	LINE 配信	派遣のお仕事紹介	配信数：504
2023/1/18	LINE 配信	プチこころのスキルアップ	配信数：503
2023/1/18	HP 掲載	イラスト入門～簡単なイラストを書いてみよう～	
2023/1/18	HP 掲載	職業人講話「プログラマーと喋ろう！」	
2023/1/18	HP 掲載	オンラインテーマトーク「今年食べたいものを教えて♪」	
2023/1/18	HP 掲載	心のスキルアップ	
2023/1/18	HP 掲載	これからの人生にいくら必要？～今後のライフプラン・マネープランを考えよう～	
2023/1/18	HP 掲載	工作広場	
2023/1/18	HP 掲載	得意やスキルを売ってみよう！①～スキルマーケットで自分の好きや得意を売る方法～	
2023/1/18	HP 掲載	元旅人に会ってみよう！聞いてみよう！プチ職業人講話	

2023/1/18	HP 掲載	はじめの一步 就職課通洞の基礎の基礎～対面面接対策講座～	
2023/1/18	HP 掲載	ちょこっと「はたらく」相談	
2023/1/18	HP 掲載	おもしろユニークなお仕事発見！プチ職業人講話	
2023/1/18	HP 掲載	プログラミングを始めてみよう！	
2023/1/18	HP 掲載	【登録なしOK】2月おすすめ講座特集	
2023/1/20	LINE 配信	イラスト好き仲間で情報交換会	配信数：502
2023/1/21	LINE 配信	40歳からのいまさら聞けない雑談のコツ講座案内	配信数：500
2023/1/23	LINE 配信	プログラミングを始めてみよう！案内	配信数：500
2023/1/25	LINE 配信	プログラム説明会	配信数：498
2023/1/31	LINE 配信	Canvaを使ってデザインしよう	配信数：499
2023/2/1	LINE 配信	プログラマーと喋ろう	配信数：499
2023/2/3	LINE 配信	オンラインテーマトーク	配信数：496
2023/2/4	LINE 配信	心のスキルアップ	配信数：524
2023/2/6	LINE 配信	これからの人生にいくら必要？～今後のライフプラン・マネープランを考えよう～	配信数：526
2023/2/9	LINE 配信	工作広場	配信数：525
2023/2/10	LINE 配信	得意やスキルを売ってみよう①	配信数：524

2023/2/13	LINE 配信	世界を旅した人に話を聞いてみよう	配信数：522
2023/2/14	LINE 配信	はじめの一步 就職活動の基礎の基礎～対面面接対策講座～	配信数：520
2023/2/15	HP 掲載	プログラム説明会	
2023/2/15	HP 掲載	はじめての粘土・レジン制作	
2023/2/15	HP 掲載	おもしろユニークなおしごと発見	
2023/2/15	HP 掲載	プログラマーと喋ろう	
2023/2/15	HP 掲載	心のスキルアップ	
2023/2/15	HP 掲載	お絵描き伝言ゲーム	
2023/2/15	HP 掲載	動画編集超入門講座	
2023/2/15	HP 掲載	はじめてのヨガ	
2023/2/15	HP 掲載	工作広場案内	
2023/2/15	HP 掲載	STUDIO 講座	
2023/2/15	HP 掲載	履歴書の書き方講座	
2023/2/15	HP 掲載	動画編集のお仕事のリアル	
2023/2/15	HP 掲載	お仕事のリアル～人間関係をよくするために工夫していること～	
2023/2/15	HP 掲載	好きや得意を売ってみよう②	
2023/2/15	HP 掲載	プログラミングを始めてみよう！案内	
2023/2/15	HP 掲載	ちょこっと「はたらく」相談	
2023/2/15	HP 掲載	3月おすすめ講座まとめ	
2023/2/17	LINE 配信	ちょこっと「はたらく」相談	配信数：520

2023/2/18	LINE 配信	おもしろユニークなおしごと 発見	配信数：517
2023/2/20	LINE 配信	プログラミングを始めてみよ う	配信数：515
2023/2/23	LINE 配信	プログラム説明会	配信数：513
2023/2/24	LINE 配信	はじめての粘土・レジン制作	配信数：514
2023/2/24	LINE 配信	システム障害のお知らせ	配信数：514
2023/2/25	LINE 配信	おもしろユニークなお仕事	配信数：513
2023/2/27	LINE 配信	システムエラー解消のお知らせ	配信数：512
2023/2/27	LINE 配信	プログラマーと喋ろう	配信数：512
2023/3/4	LINE 配信	心のスキルアップ案内	配信数：510
2023/3/7	LINE 配信	お絵描き伝言ゲーム案内	配信数：507
2023/3/8	LINE 配信	動画編集超入門講座案内	配信数：504
2023/3/9	LINE 配信	はじめてのヨガ案内	配信数：504
2023/3/10	LINE 配信	工作広場案内	配信数：507
2023/3/11	LINE 配信	STUDIO 講座	配信数：508
2023/3/12	LINE 配信	履歴書の書き方講座	配信数：512
2023/3/13	HP 掲載	VBA 入門案内	
2023/3/13	HP 掲載	工作広場案内	
2023/3/13	HP 掲載	プログラマーと喋ろう案内	
2023/3/13	HP 掲載	心のスキルアップ案内	
2023/3/13	HP 掲載	はじめの一步案内	
2023/3/13	HP 掲載	プログラミングをはじめてみ よう！案内	

2023/3/13	HP 掲載	おもしろユニークなおしごと 発見案内	
2023/3/13	HP 掲載	ココナラで好きや得意を売っ てみよう案内	
2023/3/13	HP 掲載	ちょこっとはたらく相談案内	
2023/3/13	HP 掲載	4月おすすめ講座まとめ案内	
2023/3/13	LINE 配信	動画編集のお仕事のリアル講 座	配信数：523
2023/3/14	LINE 配信	プログラミングを始めてみよ う講座案内	配信数：528
2023/3/15	LINE 配信	お仕事のリアル案内	配信数：527
2023/3/16	LINE 配信	好きや得意を売ってみよう① 案内	配信数：526
2023/3/17	LINE 配信	ちょこっとはたらく相談案内	配信数：524
2023/3/29	LINE 配信	VBA 入門案内	配信数：524
2023/3/30	LINE 配信	工作広場案内	配信数：522
2023/3/31	LINE 配信	プログラマーとしゃべろう案 内	配信数：520

【表 1-2 令和 4 年度周知広報一覧：他機関連携の状況】

実施日	連携関係機関	連携内容
2022/5/12	国立市役所福祉総合 相談係（ふくふく窓 口）	各種チラシの配架許可（3種各50部程 度）ご説明
2022/5/20	立川市社会福祉協議 会	各種チラシの配布（3種：各100部～ 140部）受け入れ 担当者にシャフトのご説明

2022/5/23	東洋システム (株)	木嶋様との顔合わせ・ご挨拶・IT 企業交流会の打ち合わせ実施
2022/6/7	東京都ひきこもりサポートネット (YSC)	ご挨拶・シャフトプログラムの説明・ケース共有の実施
2022/6/11	立川市さくらんぼ保育園	バザー出店のご提案をいただき、ハンドメイド品の出店を実施 (事前準備・当日販売を利用者が担当)
2022/6/16	立川市ネットワーク会議 (多摩エリアの教育・雇用・福祉・行政の会議)	勉強会・情報交換会 (小グループ「雇用」) に参加 (月 1 回)
2022/6/16	たちかわ IT 企業交流会 (複数社参加)	IT 企業交流会にて、IT 系訓練プログラムのご説明・インターン等の受け入れのお願い
2022/6/20	非営利活動法人ワーカーズコープたちかわーく (B 型就労継続支援事業)	仕事体験受け入れについてのお問合せあり・7/6 スタッフ訪問予定
2022/6/28	株式会社 システムクラフト	IT 企業交流会で名刺交換・その後ご連絡・7 月 6 日に企業訪問・お打合せ (インターンや採用受け入れのヒアリング予定)
2022/7/6	非営利活動法人ワーカーズコープたちかわーく (B 型就労継続支援事業)	訪問 (しごと体験受け入れ・採用について)
2022/7/6	株式会社 システムクラフト	訪問 (しごと体験受け入れ・採用について)
2022/7/20	東京都ひきこもりサポートネット (他関連団体複数)	勉強会・交流会に参加 シャフトプログラムのご説明・事例共有

2022/7/21	TCOM JAPAN 合同会社	IT 企業交流会で名刺交換・その後ご連絡・企業訪問
2022/7/26	立川市地域包括支援センター（たかまつ包括）	小地域ケア会議に参加（シャフトプログラムの紹介・名刺交換）
2022/8（複数回）	いなげや（スーパー）	しごと体験の依頼・受託
2022/8（複数回）	ヤマト運輸株式会社（昭島センター）	しごと体験の依頼・受託
2022/9/8	立川市ネットワーク会議	情報交換会・勉強会
2022/9/14	ReBit・薬師様	LGBTQ 研修（スタッフ向け）の実施（薬師様）
2022/10/6	立川市社会福祉協議会（ボランティアセンター）	チラシの配布（12 月出張講座・出張相談・シャフトメインチラシ）
2022/10/21	立川市地域包括支援センター（たかまつ包括）	地域情報広報誌「まちねっと」12 月号へのシャフト・プログラムの講座掲載依頼（心のスキルアップ）
2022/11/1	宮城県岩沼市 NPO 法人アスイク	オンライン支援事業の説明（シャフトプログラム他）
2022/11/7	いなげや体験	立川市内の企業（いなげや）の職場体験会の実施
2022/11/10	三恵ピーアール見学・説明会	有限会社三恵ピーアールの説明会・見学会の実施
2022/11/14	ティルウィンドシステム	社内見学・説明会・インターン受け入れに関するお打合せ
2022/11/21	壽屋見学・説明会	立川市内の企業（壽屋）の説明会・見学会の実施

2022/12/7	立川市内図書館	市内図書館への職業体験の依頼・調整 (中央図書館と調整中)
2022/12/8	株式会社おしゃれ工房	製造工場現場 (ミシン) の体験・見学
2022/12/14	愛知県県民文化局県 民生活部社会活動推 進課 青少年グルー プ	愛知県 こども・若者支援ネットワ ーク講演会 『子ども・若者支援と就職氷河期世代 支援の連携について』 基調講演としての登壇・意見交換会に 参加 (シャフトの実績報告と事例共 有)
2022/12月	立川市地域包括支援 センター (たかまつ 包括)	地域情報広報誌「まちねっと」2月号 へのシャフトプログラムの講座掲載依 頼 (心のスキルアップ)
2023/1/17	株式会社 システムク ラフト	企業見学会の事前お打合せのため訪問
2023/1/17	立川市中央図書館	見学・体験会の事前お打合せのため訪 問
2023/1/24	NHK	シャフトプログラムの事前取材 (企画 段階の情報収集)
2023/1/31	宮城県岩沼市福祉 課・NPO 法人アスイク	就労支援団体・委託元の自治体様への オンライン支援 (シャフトプログラ ム) のご説明
2023/2	立川市地域包括支援 センター (たかまつ 包括)	地域情報広報誌「まちねっと」2月号 へのシャフトプログラムの講座掲載依 頼 (心のスキルアップ)
2023/2 (複 数日) 実施	マクドナルド (立川 の店舗)	仕事体験会の実施 (3日間)
2023/2/9	株式会社 システムク ラフト	企業説明会の実施

2023/2/10	立川市産業振興課	立川市 LINE にてシャフトプログラムのお知らせ配信（出張相談）→シャフト HP のアクセス数の増加
2023/2/21	多摩工業交流会	120 社参加のイベントに参加し、7 社と交流（名刺交換）
2023/2/24	立川市産業振興課	駅前出張相談「ちょこっとはたらく相談」実施
2023/3/7	立川市中央図書館	見学・体験の実施
2023/3/8	世田谷地域若者サポートステーション	シャフトプログラムの事例発表・支援者向け研修会の登壇
2023/3/24	立川市産業振興課	駅前出張相談「ちょこっとはたらく相談」実施
2023/3（複数日）実施	マクドナルド（立川の店舗）	仕事体験会の実施（3 日間）

(2) 相談とシャフト・プログラムの受講者登録

令和 4 年度は 122 人に対し相談（初回相談や登録なしに受講できる講座の提供を含む）を実施した。

初回相談では、認定 NPO 法人育て上げネットの職員が支援者として、支援対象者やその保護者等を対象に、本人の状況や希望を聞きながら、本事業の説明や、他の支援機関に関する情報提供を行っている。支援対象者がシャフト・プログラムの利用を希望する場合には、必要に応じて保護者や関連機関の支援者も交えて、この事業の利用が適切かを見極め、もし利用が適切でない場合であれば、支援課題に応じた他の支援機関の情報提供を行った。面談の結果事業利用が適切となれば、プログラムを利用した支援を開始することとした。

令和4年度からは、立川市及び周辺自治体の利用者の掘り起こしを強化するため、立川市産業振興課と連携し、対面での相談ができる出張相談「ちょこっとはたらく相談」を新たに開始し、のべ29人が相談に訪れた。

面談の中で支援対象者の悩みや課題等を丁寧に聞き取り、一人ひとりにあったペースで面談を実施し、サポートを行った。その結果、122人の相談者のうち、42人がシャフト・プログラムの受講者として登録を行った。

なお、令和3年度の初回相談は116人であり、うち67人が受講者として登録を行った。

(3) 講座一覧・参加者数

令和4年度は、シャフト・プログラムでは85種類（令和3年度は68講座）の講座が用意され、計247回（令和3年度は170回）開催された。そのうち、40代を対象とした講座が4講座（令和3年度は7講座）開講された。85種類の講座のうち、オンラインのみの講座が70講座、オンラインと対面併用の講座が10講座であった。参加人数は、延べ753人（令和3年度は632人）であった。

講座は、いわゆる報連相、ビジネスマナー、敬語のような社会人の基本を学ぶ講座、エクセル、ワード、チームスの使い方など事務職に親和性のある講座、ハンドメイド、Web制作、動画編集、プログラミングなど自分の「好き」を仕事にするための講座や、コミュニケーション講座や応募書類の書き方、面接対策講座のような採用試験の対策講座、社会人に対する質問・相談会、職業紹介講座のようなステップアップ・新しい職業観の醸成に資する講座や、シミュレーション形式で困ったときの支援先を知る講座、朝活、心のスキルアップ講座、マインドフルネス講座、交流会など心身・生活の安定を保つ講

座など、利用者のニーズに沿った幅広い分野の講座を開講した（各講座の一覧と参加者数は表2を参照）。

立川市及び周辺自治体の利用者の掘り起こしを強化するため、令和4年度からの新たな取り組みとして、立川市産業振興課とも連携し、出張講座を始めた。6月27日に「40代からはじめるホームページ作成入門講座」を、12月13日に「「Canva」を使ってデザインしよう ～無料デザインツールの使い方～」を実施した。

【表2：令和4年度講座一覧】

講座名	実施形態	講座概要	参加人数（延べ）		合計	講座実施回数
			対面	オンライン		
朝活	オンライン	朝9時半にオンライン上で集合し、自分の好きなことをする。 生活リズムを整えたい方や、習慣作りをしたい方、ゆるやかに人と関わりたい方などにおすすめ	—	77	77	69
心のスキルアップ	オンライン	自分の”ごきげん！”を見つけだし、毎日を快適に過ごす方法	—	80	80	12
プチ心のスキルアップ	オンライン	自分の”ごきげん！”を見つけだし、毎日を快適に過ごす方法	—	4	4	1
工作広場	対面・オンライン	自分の作りたいものを楽しみながら作る講座	37	7	44	20

工作広場広場説明会	オンライン	工作広場の説明会	—	3	3	1
工作広場～レジンとマスキングテープでクリップ作り～	対面	利用者が講師となり、レジンとマスキングテープでクリップを作る講座	2	—	2	1
ヘアアクセサリ作り	対面	ヘアクリップにマスキングテープや、ネイルパーツをつけて、レジンで固めてヘアアクセサリを制作	2	—	2	1
イラスト入門	対面・オンライン	普段工作広場に参加してくださっている利用者さんが講師のイラストの描き方講座	3	3	6	1
はじめての粘土・レジン制作	対面	普段工作広場に参加してくださっている利用者さんが講師の粘土・レジン制作の講座	4	—	4	1
スモールビジネス紹介	オンライン	「好き」や「得意」を活かせる小さい単位の小商いについての情報共有・情報交換・ワークを行う講座です	—	20	20	2
スモールビジネス情報交換会	対面・オンライン	「好き」や「得意」を活かせる小さい単位の小商いについての情報共有・情報交換・ワークを行う講座です	4	11	15	2
スモールビジネス実践編_ギグワーカー・スキマバイト	オンライン	「好き」や「得意」を活かせる小さい単位の小商いについての情報共有・情報交換・ワークを行う講座です	—	16	16	2
スモールビジネス実践編_メルカリ・ミネを使ってみよう	オンライン	「好き」や「得意」を活かせる小さい単位の小商いについての情報共有・情報交換・ワークを行う講座です	—	6	6	1
スモールビジネス実践編_ココナラをはじめよう	対面・オンライン	「好き」や「得意」を活かせる小さい単位の小商いについての情報共有・情報交換・ワークを行う講座です	—	5	5	1

スモールビジネス実践編_好きや得意を売ってみよう	オンライン	「好き」や「得意」を活かせる小さい単位の小商いについての情報共有・情報交換・ワークを行う講座です	—	16	16	2
イラスト好き仲間で情報交換会	対面・オンライン	「好き」や「得意」を活かせる小さい単位の小商いについての情報共有・情報交換・ワークを行う講座です	2	2	4	1
テレワーク入門「Teams&Zoomの使い方」	対面・オンライン	オンランツールを使って、テレワークの体験をする講座	2	7	9	3
動画編集入門 (AdobeRush)	オンライン	人気のある動画編集の初歩講座	—	27	27	4
40代ホームページ作成入門 (Jimdo)	対面	興味はあるがやったことがない人対象のWeb講座。Web制作の入門講座	9	—	9	1
動画編集のお仕事のリアル	オンライン	育て上げネットの動画編集スタッフが仕事のリアルをお話しします	—	8	8	2
WEB入門 STUDIO 講座	オンライン	興味はあるがやったことがない人対象のWeb講座。Web制作の入門講座	—	13	13	2
VBA入門	オンライン	officeソフトExcelの自動処理機能「VBA」を使って、プログラミングの考え方を学ぶ講座	—	14	14	3
VBA入門②	オンライン	officeソフトExcelの自動処理機能「VBA」を使って、プログラミングの考え方を学ぶ講座	—	7	7	1
Canva 講座	対面・オンライン	Canvaでデザインを作成する講座	7	25	32	3
PC講座 Word 基礎編	オンライン	ビジネスでよく使われるWordやExcel、PowerPointなどを学ぶ講座。初めて触る方や、基礎固め、学び直しにも最適な講座です	—	4	4	1

PC 講座 Word 応用編	オンライン	ビジネスでよく使われる Word や Excel、PowerPoint などを学ぶ講座。初めて触 る方や、基礎固め、学び直 しにも最適な講座です	—	3	3	1
PC 講座 Excel 基礎編	オンライン	ビジネスでよく使われる Word や Excel、PowerPoint などを学ぶ講座。初めて触 る方や、基礎固め、学び直 しにも最適な講座です	—	7	7	1
PC 講座 Excel 応用編	オンライン	ビジネスでよく使われる Word や Excel、PowerPoint などを学ぶ講座。初めて触 る方や、基礎固め、学び直 しにも最適な講座です	—	9	9	1
プログラミン グを始めてみ よう	オンライン	プログラミングやデバッグ など、各種 IT 系スキルの 体験をする講座	—	17	17	4
citi お仕事の リアル「職場 内のコミュニ ケーションの コツをおしえ てください」	オンライン	企業で働いている方をゲスト に迎え、お仕事での疑問 を利用者さんが質問する講 座	—	3	3	1
citi お仕事の リアル「自分 の強みの見 つけ方を教え てください」	オンライン	企業で働いている方をゲスト に迎え、お仕事での疑問 を利用者さんが質問する講 座	—	6	6	1
citi お仕事の リアル「働く 上で大切に していること は何ですか？」	オンライン	企業で働いている方をゲスト に迎え、お仕事での疑問 を利用者さんが質問する講 座	—	7	7	1
citi お仕事の リアル「言い にくいこと の伝え方・困 った時の質問	オンライン	企業で働いている方をゲスト に迎え、お仕事での疑問 を利用者さんが質問する講 座	—	7	7	1

仕方教えてください」						
citi お仕事のリアル「仕事以外の時間の使い方、楽しみ方（趣味・好きな事）を教えてください」	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	8	8	1
citi お仕事のリアル「仕事・プライベート、服装やみだしなみで気をつけていることありますか？」	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	1	1	1
citi お仕事のリアル「入社前に職場の人間関係を知る方法」	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	4	4	1
citi お仕事のリアル「あなたのルーティーンを教えてください」	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	2	2	1
citi お仕事のリアル「人間関係をよくするために工夫していることを教えてください」	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	6	6	1

おしゃべり交流会「アニメの登場人物になるなら誰が良い？」	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	1	1	1
おしゃべり交流会「好きな食べ物・おススメのお店について話してみよう」	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	1	1	1
おしゃべり交流会「おすすめの映画を伝えたい！知りたい！」	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	1	1	1
おしゃべり交流会「お気に入りの雑貨について話してみよう」	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	1	1	1
元アナウンサーによる面接講座	オンライン	採用面接で面接官が注目しているポイントや質問の意図を解説	—	8	8	1
音楽業界のお仕事	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	8	8	1
プログラマーと喋ろう	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	9	9	3
プログラミングの勉強方法を学ぼう	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	7	7	1
IT系の仕事について知ろう	オンライン	IT系の仕事ガイダンス。仕事理解と自己理解を深める講座	—	11	11	1

オンライン面接対策講座	オンライン	採用面接で面接官が注目しているポイントや質問の意図を解説	—	3	3	1
ビジネスマナー講座	オンライン	職場での話し方、電話やメール、または名刺の受け取り方などの基本的なマナー習得講座	—	5	5	1
自分の強みを知ろう	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	3	3	1
求人票の見方と履歴書の書き方	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	2	2	1
弱みを強みに変える方法	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	7	7	1
面接対策講座	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	5	5	2
応募書類講座	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	1	1	1
あなたが大切にしている仕事の価値観とは？	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	6	6	1
魅力的な自己PRの作成	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	3	3	1
クイズで学ぶマナー講座	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	6	6	2
企業研究の仕方	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	6	6	1
はじめての求人応募のやり方	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	3	3	1

派遣という働き方～自分らしく働くために	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	3	3	1
履歴書作成講座	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	3	3	2
志望動機作成にチャレンジ～なるほど！と思わせる志望動機とは～	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	1	1	1
派遣のお仕事紹介	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	4	4	1
就職活動の基礎の基礎	オンライン	就職活動をするにあたっての基本的スキル、マナー、ノウハウ習得を目指す講座	—	1	1	1
職業人講話会～会社員からフリーランスデザイナーへの転職～	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	5	5	1
マルチワーカーとして働く～型にはまらない生き方～	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	9	9	1
世界を旅したひと話をきいてみよう	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	9	9	1
職業人講話 12年で7社転職しつづけたワケ	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	1	1	1
おもしろユニークなお仕事発見！プチ職業人講話	オンライン	企業で働いている方をゲストに迎え、お仕事での疑問を利用者さんが質問する講座	—	19	19	5

40歳からのいまさら聞けない敬語	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	6	6	1
40歳からのいまさら聞けない「アサーション」	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	6	6	1
40歳からのいまさら聞けない報連相	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	3	3	1
いまさら聞けない雑談講座	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	9	9	2
オンラインテーマトーク	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	2	2	1
これからの人生にいくら必要？～今後のライフ・マネープランを考えよう～	オンライン	変化の激しい時代において、今後の自分のお金と生活、仕事について考えていく講座	—	4	4	1
PC自習室	対面・オンライン	パソコンでofficeソフトなどの学習を自主的に進めながら、疑問点等をスタッフと一緒に解決し、スキルアップを目指す	1	2	3	3
オンライン自習室	オンライン	パソコンでofficeソフトなどの学習を自主的に進めながら、疑問点等をスタッフと一緒に解決し、スキルアップを目指す	—	7	7	6
ゲーム会	対面	コンピューターゲームやビデオゲームなどを使用し、コミュニケーションやチームワークを学ぶ	3	—	3	2
お描き伝言ゲーム	オンライン	人とのコミュニケーションをとる基礎講座	—	4	4	2

はじめてのヨガ	対面・オンライン	ストレッチをする感覚で、自分の身体と相談しながら呼吸に意識をむけたり、ポーズをとったりする初心者向けのヨガ講座	1	2	3	1
ソーシャルファーム説明会	オンライン	ソーシャルファーム企業の説明会	—	5	5	2
プログラム説明会	対面・オンライン	プログラムや講座の説明会	1	1	2	2
仕事体験マッチングフェア	オンライン	仕事体験が可能な企業のお話（仕事内容や体験できること）を聞く説明会	—	2	2	1
スプラトゥーン動画編集の説明会	オンライン	企業や仕事の説明を聞く説明会	—	1	1	1
ステップ・キャンプ	オンライン	ステップ・キャンプ講座（オリエンテーション・職業人講話・仕事体験等）	—	34	34	26
合計			78	675	753	247

(4) 伴走支援

シャフト・プログラムでは、初回の相談、継続支援のシャフト・プログラムの受講者登録、個別相談・講座の参加、進路等決定、フォローアップまで、切れ目なく伴走型で支援を行っている。目標を正社員として就職することだけに限らず、スモールビジネスに取り組むことや、他の支援機関等につながることで社会的孤立を脱するなど、利用者それぞれの状況と希望にあったゴールを目指し、個別相談の中で利用者の抱える悩みや課題を丁寧に聞き取りながら、一人ひとりにあったペースや内容で支援を進めた。

(5) オンラインでの対応状況

シャフト・プログラムでは、初回相談から、個別相談、講座の参加、フォローアップまで、対面での支援に加えオンラインでの支援にも対応し、支援を受ける人のニーズに合わせてオンライン及び対面どちらでも選ぶことができるようになっている。

シャフト・プログラムの相談者（初回相談や登録なしに受講できる講座の提供を含む）122人のうち、令和4年度は個別相談やセミナー等の利用をすべてオンラインで行った者は54人、対面とオンラインを併用した者は21人だった。対面のみを利用した者は30人だった（確認できたもののみ）。

講座については、延べ753人の参加人数のうち、オンラインで参加したものは延べ675人であり、対面で参加したものは延べ78人だった。

令和4年度の利用については、令和3年度に引き続き、オンラインを中心に行われ、特に面談はオンラインでの実施がほとんどだったといえる。

(6) 令和4年度K P I の達成状況

①K P I の目標値と考え方

シャフト・プログラムの令和4年度K P I の目標値については、以下のよう
に定めている。

K P I ① 相談窓口の相談者数:100

K P I ② シャフト・プログラムの受講者数:60

※初回相談の後、継続的にシャフト・プログラム（個別相談・講座など）を受講するための登録をした者の数。

K P I ③ 本事業による就職等進路決定者数:50

このK P Iについての考え方は、K P I ①については、幅広く相談を受けることにより、適切な訓練、社会参加、就労・就職に結びつく者が増えることから、まず相談者数が多いことが望ましいため、相談者数（初回相談と、登録なしに受講できる講座を初めて受講した数）とした。正社員化や就労へのハードルの低い者だけでなく、引きこもり状態など多様な課題や困難を抱える者の支援も重要であることから、社会的に孤立した状態から相談につながることそのものが非常に重要である。なお、このK P Iは本事業による支援を実際に受けた者の総数（人数）を表すものである。

K P I ②は、初回の相談をした者の中で、継続的にシャフト・プログラムが提供する個別相談・講座の参加といったプログラムを受講するための登録を行った者の人数を設定している。K P I ①の相談者の中には、職業訓練系プログラムを受講する以前に例えば治療や福祉サービスが適している者などもあると考えられることや、認定NPO法人育て上げネットが提供するもの以外の支援が合う者もいることを勘案して、概ね相談者数の6割程度の受講者数を見込んで設定している。

K P I ③は、最終的なアウトカムを表す指標である。ア) 正社員化した者の数、イ) 無業状態から就労・就職した者の数、ウ) スモールビジネスなどその他の「働く」を達成した者の数、エ) 職業訓練校や教育機関に移行した者や福祉サービスなど「働く」以外の進路決定者数の総和として設定している。このK P Iの設定に当たっては、本事業を極力包摂的なものとし、多くの人たちに支援を届けようと考えた。

狭義の就職支援を考えると、上記ア) やイ) の指標を重視しがちになるが、そのように評価指標を狭くとらえてしまうと就労自立に近い状態の者を重点的に支援した方が高い評価を得やすくなり、最も支援が必要な困難を抱える

人たちへの支援が手薄になりかねないという矛盾が生じてしまう。このため、本人に合った多様な働き方を目指すことや、就労自立のハードルが高い者への支援の価値も勘案して、幅広い層の人たちの支援効果を評価できるように工夫したものである。

具体的には、就労困難者の中には様々な課題を抱える者がおり、就職以外の本人の特性や希望に応じた多様な働き方を目指すことも、幅広い人の社会参加や自立に資することから、K P I ③で多様な働き方も含めて評価することとした。スモールビジネスについては、それだけで完全な職業的な自立ができない場合であっても、自分の活動が誰かの役に立ち対価を得られることにより、収入が増えることに加えて自己肯定感・自己効力感が獲得できる点にも着目して指標に含めた。また、支援の提供者が認定NPO法人育て上げネットかどうかにかかわらず、本人に合う場合には、職業訓練校や教育機関などに移行することも重要であることから、そうしたものも評価できるよう、K P I ③の指標に含めた。さらに、引きこもりや孤立などの生活上の困難を抱える者については、就労支援の前に福祉サービスなど適切な支援につながることも、本人のよりよい生活や自立可能性の向上に資することから、指標に含めた。

②令和4年度の達成状況

令和4年度のシャフト・プログラムのK P I達成状況は、以下のとおりであった。

K P I ① 相談窓口の相談者数：122人（目標100人、昨年度116人）

K P I ② シャフト・プログラムの受講者数：42人（目標60人、昨年度67人）

KPI③ 本事業による就職等進路決定者数：45人（目標50人、昨年度45人）

評価の詳細と次年度に向けた提案は、以下の「4. 令和4年度事業の分析・評価」及び「6. 次年度以降に向けた提案」に詳述するが、相談者数はKPIを達成した一方で、受講者数と就職等進路決定者数はKPI達成には届いていない。特に受講者数については、昨年度の67人に比べて伸び悩んでいるように見える。

【表4：令和4年度相談者数・受講者数・就職等進路決定者数（月ごと／累計）一覧】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実人数
相談窓口の相談者数 KPI①	3	6	24	4	8	12	3	14	24	8	4	12	122

シヤフト・プログラムの受講者数 KPI ②	4	4	3	7	2	2	3	3	5	5	2	2	42
就職等進路決定者数 KPI ③	4	4	2	4	1	8	7	3	2	4	0	6	45

4. 令和4年度事業の分析・評価

ここでは、シャフト・プログラムの登録時に相談者が記載したインタビューシート、シャフト・プログラムにおける支援の記録、支援者へのヒアリングなどから、令和4年度における事業の評価として、相談者の属性の分析を行った上で、シャフト・プログラムの個別相談・講座による支援の効果、オンライン支援の効果、就職等進路決定の状況等について評価を行う。また、最後にKPIの達成状況についての評価を行う。

(1) シャフト・プログラム相談者の特徴

①相談者の属性の概況

令和4年度新規相談者122人の属性の概況は以下のとおりである。これらの情報は支援開始時のインタビュー、個別相談、利用者アンケートなどから得たものであるが、相談者によっては自己開示について慎重な姿勢の人もいる中で、支援者との信頼関係を丁寧に築きながら確認する必要がある。このため、項目によっては、相談者全員について確認がとれていないものもあることに留意が必要である。

i) 年齢

令和4年度の相談者122人のうち年齢の内訳は、以下のとおり（確認できたもののみ。以下この章において同じ）。括弧内は令和3年度の相談者の状況を記載する。

34歳以下：9人（11人）

35～39歳：35人（32人）

40～44 歳 : 27 人 (33 人)

45～49 歳 : 32 人 (30 人)

50 歳以上 : 18 人 (8 人)

ii) 性別

令和 4 年度の新規相談者の性別は、男性が 32 人、女性が 90 人（令和 3 年度は男性が 45 人、女性が 70 人）だった。事業当初から女性利用者が男性利用者に比べてやや多い傾向だったが、令和 4 年度は女性の比率が更に増えた。立川市及び周辺自治体へのアプローチを重視したことや、駅前相談などの対面の相談を取り入れたことにより利用者層が変わったことが考えられる。

iii) 学歴

令和 4 年度の新規相談者の最終学歴は以下のとおり。括弧内は令和 3 年度の相談者の状況を記載する。

大学卒業以上 : 17 人 (35 人)

短大卒業 : 3 人 (8 人)

大学中退 : 2 人 (1 人)

大学在学 : 1 人 (0 人)

短大中退 : 1 人 (0 人)

高等専門学校卒 : 1 人 (0 人)

専門学校卒業 : 4 人 (5 人)

専門学校中退：1人（1人）

高校卒業：8人（6人）

高校中退：1人（1人）

中卒：0人（1人）

令和3年度までの傾向に引き続き、学歴は大学卒業以上の占める割合が最も大きかった。

v) 引きこもり、精神的な問題、家庭の状況

令和4年度の新規相談者のうち、引きこもりの経験がある者は2人だった。令和3年度の相談者のうち、引きこもりの経験がある者は5人だった。

相談者のうち、うつ病等のなんらかの精神的な問題を抱えている者は2人、身体的な病気を抱えているものは3人だった。令和3年度の相談者のうち、うつ病等のなんらかの精神的な問題を抱えている者は8人、身体的な病気を抱えているものは5人だった。

なお、この数字は、主に受講まで至った人に対して個別相談の際に聞き取った情報を基にしているが、支援者によれば、令和4年度は、出張相談などを通じて相談に来る新規相談者の中には、障害等により意思疎通が困難な人も多く、受講に繋がれずに他機関を紹介したケースもあり、実際の数字は上記よりも多い所感であった。

家庭の状況については、確認できた21人のうち一人暮らしが7人、親と同居が2人、子と同居が2人、配偶者と子と同居が5人、配偶者と同居が4人、祖父母と同居が1人だった。令和3年度の相談者では、確認できた12人のうち

一人暮らしが1人、親と同居が5人、子と同居が1人、配偶者と子と同居が4人、配偶者と同居が1人だった。

iv) 就労経験

令和4年度の新規相談者のうち就労経験について確認できたのは49人。このうち、これまでに就労した経験がある者は48人だった。うち雇用形態について明らかなものは、正社員が21人、正社員以外が27人、就労した経験が無い者は1人だった。

令和3年度の相談者116人のうち就労経験について確認できたのは60人。このうち、これまでに就労した経験がある者は58人だった。うち雇用形態について明らかなものは、正社員が18人、正社員以外が28人、就労した経験が無い者は2人だった。

令和4年度も、令和3年度までと同様、受講者のほとんどが就労経験がある者であり、雇用形態については、正社員以外での就労経験である者の割合が多い結果となった。

就労経験のある48人のうち、現在在職中の利用者が21人（令和3年度は16人）いた。

②シャフト・プログラム受講のきっかけと目的

令和4年度の新規受講者に対するシャフト・プログラム登録時のアンケートで、「相談したいこと（複数回答可）」として利用者が回答した事項は、回答が多かった順から以下のとおりだった。括弧内は令和3年度の相談者の状況を記載する。

ア) 「自分に合う仕事をしたい」 11人 (42人)

- イ) 「正社員になりたい」 9人 (24人)
- ウ) 「働ける自信を付けたい」 8人 (24人)
- エ) 「仕事に就きたい」 7人 (38人)
- オ) 「履歴書や面接の対策をしたい」 6人 (28人)
- カ) 「ブランク (空白の期間) があるので対策をしたい」 6人 (20人)
- キ) 「仕事を続けられるようになりたい」 5人 (21人)
- ク) 「どうにかしたいが何から始めたらよいかわからない」 5人 (18人)
- ケ) 「仕事に対するイメージを深めたい」 5人 (14人)
- コ) 「PCを習いたい」 4人 (20人)
- サ) 「コミュニケーションへの苦手意識を克服したい」 4人 (14人)
- シ) 「職場でのルールやマナーを身につけたい」 4人 (6人)
- ス) 「仲間が欲しい」 4人 (10人)
- セ) 「生活改善をしたい」 3人 (8人)
- ソ) 「漠然とした不安を解決したい」 3人 (20人)
- タ) 「集団行動力を身につけたい」 1人 (3人)

例年と同様に、シャフト・プログラムの利用者は、自分に合う仕事を見つけないという希望が多い傾向にあることが分かった。就職や仕事の継続・安定した職の確保を挙げた者も多かった。

また、「漠然とした不安を解決したい」、「仲間が欲しい」、「どうにかしたいが何から始めたらよいかわからない」など、利用者個人では解決が難しい課題や、就職活動の前段階の課題を抱えている者も一定数いることが分かった。

「仕事に就きたい」「仕事を続けられるようになりたい」「働ける自信を付けたい」といった回答を選ぶ方が多かった一方で「どうにかしたいが何から始めたらよいかわからない」と回答する方も多かったことから、意欲はあるが、アクションの取り方がわからない、という方が一定数いることが浮かび上がった。

令和4年度の新規受講者の来所のきっかけは、以下のとおりだった。括弧内は令和3年度の実績者の数字を記載した。

本人 18人 (35人)

他機関からの紹介 2人 (19人)

親・親戚・友人の勧め 2人 (10人)

来所のきっかけとしては、昨年度と同様本人の意思によるものが一番多かった。他機関からの紹介については、昨年度は20人弱いたが今年度は2人にとどまった。この要因は、昨年度は日本電信電話株式会社（NTT）とKDDI株式会社とが共同で行う「つなぐ×かえるプロジェクト」（<https://tsunagu-kaeru2.jp>）における利用者の相談を受ける「つなぐサポートルーム」や、厚生労働省の「コロナ禍におけるひきこもり・生活困窮者に対するデジタル領域への緊急就労支援事業」として「R-PAC」（<https://public.sodateage.net/imakara/>）という事業を育て上げネットが運営しており、これらの事業の参加者がシャフト・プログラムに参加するケースが多かったが、今年度はこれらの事業がなかったことにある。

③シャフト・プログラム受講者の居住地の特徴

令和4年度の相談者122人の所在地の内訳は、以下のとおり。括弧内は令和3年度の相談者の状況を記載した。立川市内及びその周辺自治体の利用者の割合が増えた理由は、立川市との連携を本年度強化したことにある。今年度は立川市産業振興課との連携のもと、立川市公式LINEで、相談会のお知らせ配信を行ったほか、自治体の広報誌である「広報たちかわ」において、相談会や講座日程の案内を行った。さらに立川駅前の窓口サービスセンターにおいて出張相談「ちょこっとはたらく相談」を行った。

立川市内 59人 (9人)

立川市周辺自治体(※) 17人 (14人)

それ以外 44人 (75人)

※ 国立市、国分寺市、小平市、東大和市、武蔵村山市、昭島市、福生市、日野市

(2) 支援（個別相談と講座）の効果

令和4年度は、就職等進路決定には45件が繋がった。受講者数は昨年度と比べると伸び悩んでいるにもかかわらず昨年度とほぼ同じペースでの実績を実現していることから、個別相談や講座による支援の効果が着実に現れていると評価することができる。

①個別相談による支援の評価

シャフト・プログラムの支援者は、それぞれ就労移行支援事業所や民間職業紹介事業者、大学等で就労支援やキャリアアドバイザーの経験を持っており、

シャフト・プログラム以外に地域若者サポートステーションでの支援の経験も有している。このような経験を持つ支援者達から見て、シャフト・プログラムの支援に最も効果的な要素のひとつは、個別相談である。

シャフト・プログラムでは、オンラインのビデオ通話または対面により、一回あたり 50 分、利用者が個別に 1 対 1 で支援者と話すことができる個別相談を行っている。

「4 (1) ③若者世代と比較したシャフト・プログラム相談者の特徴」でも述べたとおり、シャフト・プログラムの相談者には、精神的な問題を抱えているなど講座への参加が直ちには難しい状況の者がおり、このような利用者にとっては、支援者の個別相談による伴走支援が効果的である。シャフト・プログラムは、単に就労に繋げるための講座を実施するだけでなく、支援者が個別面談を通じて利用者の生活状況や困り事を聞き取るなど、就労に向けての課題や目標と一緒に整理する伴走支援を行っている。

他のプログラムではこのような個別相談の支援がないか、回数が限られていたり、対面での支援に限られていたりするが、シャフト・プログラムではオンラインで利用者の状況に合わせて頻度をカスタマイズして丁寧に相談にのることができる。この点は、「4 (1) ③若者世代と比較したシャフト・プログラム相談者の特徴」でも指摘した、シャフト・プログラムの受講者の背景事情や就労のゴールが多様であり、受講者一人ひとりの目線、ペースに合わせた支援が必要であるという就職氷河期世代の利用者の支援のニーズに合致していると考えられる。

また、相談者の多くは、1 対 1 の相談を望んでおり、丁寧なカウンセリングを求めている。支援者と話すことにより不安を解消する必要性の高い者に対しては頻繁に個別相談を行い、就労中の利用者に対しては1か月に1度程度休

日に課題を整理するための個別相談を行うなど、それぞれの利用者の状況にあった効果的な支援を実施している点は評価できる。

また、他の支援機関を並行して利用している利用者に対しては、それらの利用状況についても聞いた上で助言等をしており、これによりサンドイッチのようにそれぞれの機関の支援を関連付ける形で効果的な支援を行っている。

支援者からは、就職に直接関係のある支援だけではなく、人生や趣味の話ができる話し相手という位置づけで利用者の心の健康をサポートできる点もシャフト・プログラムならではの特徴だという声も聞かれた。特に女性で無業状態にある利用者は、コロナの影響もあり人と話す機会があまりないことから、シャフト・プログラムでの定期的な面談を楽しみにしている人も多いという。

また、支援者によれば、個別相談が効果的なケースとして、自分に自信がなく、自分の強みが理解できていない人が、支援者が棚卸を一緒にすることにより、自信がつく場合がある。例えば、過去に自分には向いていないと思って諦めていた職種や役職について、シャフト・プログラムの面談を経て、「今なら挑戦できるかもしれない」と前向きな思いになる利用者もいるという。

上記のとおり、個別相談による支援は、利用者の就職活動を支えるだけでなく、心の健康のサポートや自己肯定感の向上に資することにより、就職等進路決定やその継続に非常に効果的であると評価できる。

②講座による支援の評価

個別相談と並ぶシャフト・プログラムのもう一つの重要なコンテンツは、講座である。シャフト・プログラムでは、相談者が受講できる多様な講座を用

意している（「3（3）講座一覧・参加者数」を参照）。そのすべてはオンラインでも受講することができる。令和4年度、シャフト・プログラムでは85種類の講座（令和3年は68講座）が用意され、計247回（令和3年は170回）開催された。参加人数は、延べ753人（令和3年は632人）であり、多くの利用者が講座を受講し、また利用者によっては複数の講座を受講していることが分かる。

令和4年度から新たに加わった講座や、新たな取り組みを行った講座について述べる。

新たに加わった講座に、以下のものがある。令和3年度に引き続き、一定の年齢を超えていても挑戦できることを講座タイトルで示すことにより、訴求効果を高めている。

-40代からはじめるホームページ作成入門講座：プログラミングを使わずにホームページを構築するための初心者向けの内容を、対面の出張講座として実施。

-40歳からのいまさら聞けない講座シリーズ：就職活動や就労を行う上で必要なコミュニケーションスキルなどについて学ぶ講座で、「敬語」「アサーション」などテーマをかえて実施。オンライン上で受講者と講演者、受講者同士が音声やチャットでコミュニケーションを取りながら双方向のコミュニケーションが可能なオンライン講座。

-おもしろユニークなお仕事発見（プチ職業人講話）：企業の社員の話を聞き、職業観を学ぶ講座について、育て上げネットの支援者が講師となり、これまで経験してきた仕事について、やりがい、嫌なこと、価値観をシェアする講座。育て上げネットの内部の人が講師として話すことで、参加者の心理的ハードルを下げて話せることを目的としている。

また、令和 3 年度から開講しているプログラミング講座について、今年度は初めて外部講師を招いて定期開催を行った。WEB のサイト作成関係の講座であり、導入編として月 2 回のペースで開催した。

さらに、令和 3 年度にスモールビジネスによるステップアップが効果的だったことを踏まえ、スモールビジネスに関する講座を継続実施するようになった。

令和 3 年度の評価委員会で、無料講座の活用や外部連携、リアルタイムでなくとも視聴できるオンライン講座の実施などの提言があった。これを踏まえ、外部講座については、シャフト・プログラムの IT リスキングのための講座（動画編集超入門講座（Rush）、Canva デザイン講座、VBA 講座、ノーコード WEB 講座など）において、Udemy や Adobe 公式チュートリアル、chot.design、Solk（マイクロソフトと育て上げネットが連携して提供するオンライン学習ツール）など他の学べるツールを紹介することとした。また、リアルタイムでの講座参加以外のニーズに対しても、Solk を活用してもらうことにより対応した。

令和 4 年度の講座による支援の評価として、シャフト・プログラム利用者のニーズやこれまでの受講の傾向を適切に捉えて講座の提供がなされており、その結果として多くの利用者が講座を受講し、またアンケートからは受講者の満足度も高いことから、講座による支援の効果は高いものであったと言える。

(3) 就職等進路決定の状況

①進路決定の概況

令和4年度に就職等何らかの進路が決まった者は延べ45人（実数は36人。昨年度以前から受講をはじめ、今年度就職が決まった者も含む）だった。延べ45人の業務形態別・進路別の内訳は以下のとおり。（カッコ内は昨年度実績）

起業・個人事業主（いわゆるスモールビジネス） 9人（12人）

パート・アルバイト 14人（12人）

派遣社員 11人（6人）

契約社員 2人（6人）

正社員 5人（6人）

他機関への紹介（リファー） 2人（2人）

B型作業所 1人（0人）

職業訓練 1人（1人）

またスモールビジネスを経験した後に、何らかの就職に結びついたものは、8人だった。

なお、シャフト・プログラムが開始した令和2年11月からの累計の受講者124人に対し、累計の就職等進路決定者は73人であり、受講者の半数以上が何らかの進路決定に結びついている。

②進路決定者の分析

令和4年度に就職等進路決定した36人について分析を行う。

男女比は、女性が22人、男性は14人であり、シャフト・プログラムの新規相談者者全体の傾向と比較するとやや進路決定者における男性の割合が多い（昨年度は女性の割合が多かった）。進路決定者の年齢分布は34歳以下は2人、35～39歳は12人、40～44歳は12人、45歳～49歳は7人、50歳以上は2人で、こちらは利用者全体の傾向と概ね同じであり、年齢による進路決定への影響はあまりなかった。

進路決定者の学歴については、大学院卒1人、大卒・短大卒23人、大学・短大中退4人、高校・専門学校卒3人、高校中退1人、中卒1人であり、大卒以上が多くを占める利用者全体の傾向と大きくは異ならなかった。これまで就いた職歴については、正社員の経験がある者が18人、正社員以外の経験がある者が17人だった。

支援者によれば、シャフト・プログラム開始時にすぐに就職活動に動けない場合であっても、プログラム開始からおよそ半年を目途に何らかのアクションに移るケースが多いという。これはシャフト・プログラムの利用者に限った傾向ではなく、若者就労支援においても同じだという。利用開始時は自己開示が難しいような場合であっても、半年間かけて支援者との信頼関係ができてくることに加え、利用開始から一定の期間が経過したことにより本人が焦りを感じて行動に移ることなどが要因として挙げられる。シャフト・プログラムでは個別相談に力を入れていることから、次に支援者と面談がある時までには、何か報告事項を作りたいと利用者が思うこともアクションに繋がっている。実際に利用者のアンケートでは、「定期的に面談があり、その間に何か報告するようなことをしなければいけないのがプレッシャーになった」、「面談日に合わせて何か良い報告ができるように頑張りたいと思えるようになったことも、とても

有難いと思っている」などの回答があり、いずれも就職に結びついている。支援者も、個別相談が利用者にとって良い刺激となるよう、ある程度支援期間が長くなり、進路決定の準備が整ったと思える利用者に対しては、例えばこれまで隔週だった面談をひと月に1回にするなど、間を明けることにより、その間の自発的な進路決定に向けた行動を促すことを心がけているという。

今年度は、事業開始から1年半以上が経過したことから、社会参加までのステップに時間を要する受講者についても、進路決定の目途をつけることができたケースが複数見られた。

Aさんは、30代後半の独身の女性で、両親と同居している。10年間正社員の事務職として働いてきたが、人間関係を原因として退職。その後、アルバイトとして短期間働いては退職する、を繰り返し、シャフト・プログラム受講時は前職から約半年のブランクがあった。受講開始当初は、むやみに就活をしてもまた合わなくて辞めてしまうのではないかという思いが強く、親からすぐに就活を行うようプレッシャーを受けながら、また貯金が減っていく焦りを抱ながらも、まずは講座を受けて自身の学びの期間とすることに専念した。その中で、WEB制作や動画編集、ハンドメイド講座などを受講し、自身がデザインやイラストの制作が好きだということが分かり、講座外でも自習を続けた。受講開始からまもなくして、イラストをオンラインで販売するというスモールビジネスにチャレンジし、購入に繋がったことや見ている人からの反応により自信を付けた。受講開始から8か月が過ぎることには、HW求人や派遣転職サイトを活用した就職活動を支援者とともに開始した。講座の受講を通して関心のあるデザインの仕事と一般的な事務職とを迷いながら就活を続け、受講開始から10か月経過した時点で、一般事務職の派遣社員として就職が決定した。就職決定後、シャフト・プログラムの個別相談で定着支援を実施することにより、職場の人間関係の相談をしながらストレスとうまく付き合うことができ、2か月後に正社員となった。講座の受講で好きになったイラストについても休日に

継続し、仕事に取り入れる方法を支援者と一緒に考えるなどし、自分の好きなことと、好きではないがやっていく仕事とのバランスを取ることができるようになった。

Bさんは、30代後半の男性で、20年間ひきこもりだった。シャフト・プログラムは開始当初の令和2年度から参加しており、丸2年間支援を行った。当初、両親はITの仕事ならできるようになるだろうという見込みを持ち、シャフト・プログラムの受講が開始された。シャフト・プログラムはオンラインで、ひきこもりサポートの支援機関は訪問で、サンドイッチのようにきめ細やかに支援を行っていた。支援期間中は、発話は難しく、Teamsのチャット機能を使っただけの面談が多く、コミュニケーションが難しいことから、支援者はシャフト・プログラムで就労を目指すよりも、より医療的・福祉的アプローチが必要と判断した。一方で、利用者本人・両親は障害を認めて通院などを行うことが難しかったことから、希望も踏まえた支援の在り方の模索が続いた。約2年間の支援を経て、支援者と利用者の関係もできた上で、クリニックへの通院や、就労移行事業所という選択肢があることについて少しずつ本人・両親にも理解を得ることができた。最終的には、ご本人・家族とも障害受容ができ、精神科のデイケアへリファーとなった。

Cさんは、40代前半の女性で、子どもを出産してから長い間専業主婦でブランクを抱えていたが、子育てが落ち着いてきたので働きたいと思い、シャフト・プログラムに登録した。もともとIT系の企業で正社員として働いていた経歴を持つが、結局続けられずに辞めてしまったことにわだかまりがあり、個別相談で、どのような状況に置かれると精神的に追い込まれるのか、どんな職場環境が良いかなどを丁寧に聞きほぐした。シャフト・プログラムの講座の受講が効果的で、リフレーミングに関する講座や、心のスキルアップトレーニングに出ることにより、ネガティブなことをポジティブに捉え直せるようになった。ITスキル関連の講座では、自分のITに関するスキルを、仕事が続かなか

ったから無駄だと思ふ気持ちから、仕事に繋がらなくても持っていこうというポジティブな捉え方に変えることができた。また、講座に出席している他の利用者との関わりの中で、自分だけではない、という気付きを得ることができた。シャフト・プログラムの受講開始からわずか3か月で、ハローワークでやりたい求人を見つけ、登録に踏み出した。この時のことを、Cさんは「シャフトにつながる前、海で溺れている自分が、今は浮き輪にしがみついて溺れずにすんでいる。泳ぐ勇気が出た」と表現している。その後、受講開始から5か月で、IT系企業の在宅ワークに契約社員として就職。現在定着支援を受けている。

思い込みが強く自信がないことからなかなか就労に結びつかずにいたが、シャフト・プログラムのオンライン講座に出ることで、いろいろな人たちの価値観を知り、自分の現在の状況のままでよいと受け止めることができるようになったことで、少し自信をつけた。結果として、IT系の在宅のパート業務に就労することができた。

③進路決定後のフォロー

シャフト・プログラムでは、一度就職等進路決定をしてもそこで支援が終了することはなく、その後のフォローアップについても行うこととしている。支援者によれば、地域若者サポートステーションでは、就労後の定着支援に期間の制限があるが、シャフト・プログラムには制限がない点が利用者の就労継続等の支援に繋がっているという。

シャフト・プログラムの利用者は、進路についても、いきなり正社員としての雇用だけではなく、パート・アルバイトや契約社員などの非正規雇用、またステップとしてのスモールビジネスを開始するケースも少なくない。このため、支援者によれば、利用者は一度進路決定した後も、更に安定した正社員への就職を目指すなど、引き続き支援を必要とする者もいるという。現

在、新型コロナウイルス感染症による影響で、対面での業務や職場での交流が減る中、就職先で孤立を深めやすいと言われている。支援者によれば、シャフト・プログラムでの進路決定者については、その後職場での孤立や人間関係のトラブルなどの課題はないという。その要因として、職場環境がよかったということや、自身の特性についてよく理解しており、個別相談による支援を経て、自分に合った進路を選んでいるということが挙げられる。

就職後のフォローアップについては、支援期間や回数に制限がないことがメリットである一方、就職した者は平日には個別相談の時間が取れず土曜日の相談になることから、支援者に対して今後進路決定者が増えれば増える程、支援が回らなくなるという課題がある。個別相談の時間を土曜日から平日に振り分ける、頻度を減らす、卒業を促すなど、今後課題の解決策が求められる。事業が3年目に突入し、事業開始時からの受講者が累計で100人を超えていることから、新規受講者への支援にも注力するため、今年度から支援終了の目途を受講者に提案し、期間を区切った対応を試みた。また、インター先の開拓に力を入れることにより、シャフト・プログラムからの卒業を促す環境整備に取り組んだ。

個別面談については期間の目途をつける一方で、講座についてはオンラインで実施していることもあり、特に期限なく受講を可能としている。進路決定後の利用者にとってよさそうなイベントや講座があれば案内メールを個別に送るなどの対応も行っている。また、進路決定後、状況によってはシャフト・プログラム以外の支援機関等の紹介も行った。例えば居場所が必要な方には女性の孤立問題の支援団体を紹介したり、スキルアップに対する意欲が高い方には学びのツールを紹介するなどし、進路決定後も受講者自身でシャフト・プログラムの期間中に得た学びのリズムやモチベーションを維持できるよう努めた。

(4) KPI の達成状況の評価

上記 (1) から (3) の利用者の状況や支援の効果の分析・評価を踏まえて、令和 4 年度の K P I の達成状況について要因分析と評価を行う。

令和 4 年度の K P I の達成状況は以下のとおりである。

K P I ① 相談窓口の相談者数:122 (目標 100)

K P I ② シャフト・プログラムの受講者数:42 (目標 60)

※初回相談の後、継続的にシャフト・プログラム (個別相談・講座など) を受講するための登録をした者の数

K P I ③ 本事業による就職等進路決定者数:45 (目標 50)

①相談窓口の相談者数

相談窓口の相談者数は K P I の 100 人を上回った。

相談者数を増やすためには、利用者に対するシャフト・プログラムの周知が重要であるところ、「3 (1) 事業の周知・広報」に記載したとおり、シャフト・プログラムについてはホームページや L I N E、チラシ等の様々な媒体を使い周知に努め、潜在的な利用者が情報に触れるための様々な取組を行っている。昨年度と比較すると、HP の PV 数が伸びており、特に令和 4 年 6 月には 3000 件、令和 4 年 8 月には 2000 件を超え、10 月以降は連続して 2000 件を超えている。HP へのアクセスが増加した月は、広報たちかわへの掲載の月とリンクしていることから、広報紙を見てシャフト・プログラムに関心を持った人が多いことが推測される。また、SNS の登録者数 (延べ) は、427 人

(2022年3月)から998人(2023年3月)まで増え、着実に支援を必要とする方に情報が届くようになったといえる。

今年度はLINEの登録者に対して、利用説明会や講座の日程案内、講座参加を呼びかける投稿を令和3年よりも多く投稿した。また、立川市及び周辺自治体へのアプローチを強化するため、市内の潜在利用者に向けた周知のために、立川市役所との連携も強化し、「広報たちかわ」に複数回講座や相談会の案内を掲載したほか、立川市産業振興課との連携のもと、立川市公式LINEで、相談会のお知らせ配信を行うなどした。

周知・広報後に実際に利用者がシャフト・プログラムを初回利用する入口についても、令和3年度まではHPからの申し込みまたは登録不要で受講できる講座への参加の2通りに限られていたが、令和4年度からは、対面での相談ができる出張相談「ちょこっとはたらく相談」と、会場とオンラインのハイブリットで参加可能な出張講座という2通りに入口が増えた。いずれも立川市産業振興課との連携による取り組みである。

出張相談「ちょこっとはたらく相談」は、令和4年5月に取り組みを開始し、毎月第4金曜日に実施、場所は立川駅前の窓口サービスセンターであり、令和4年度は計10回行われた。タイトルを「ちょこっとはたらく相談」にすることで、相談に感じるハードルを低くする狙いがある。実際にほとんどの相談者が「市内にこんなに親身になってもらえる相談機関があることを知らなかった、ありがたい」という感想を述べた。また、出張相談は対面で行われることから、最初の相談をオンラインで行うことに対してハードルを感じていた層に対しても支援が届けられた。この結果、全10回を通して相談に来た人数(実人数)は27人であり、うち立川市の相談者は23人、周辺自治体の相談者は3人だった。

出張講座については、6月27日に「40代からはじめるホームページ作成入門講座」を、12月13日に「「Canva」を使ってデザインしよう ～無料デザインツールの使い方～」を実施した。会場とオンラインとのハイブリット方式で実際し、募集してすぐに定員が満員となった。計33名が申し込みをし、24名が参加した。24名の参加者のうち17名は立川市民であった。）出張講座については、市役所、図書館、市内学習館、子ども未来センター、社会福祉協議会、ボランティア・市民活動センターたちかわ、国立市役所にチラシを配置して広報を行った。

シャフト・プログラムのホームページなどではオンラインでの支援を前提とした記載があることから、オンラインでの支援にハードルを感じて初回相談を躊躇うようなケースもあると考えられる。オンライン支援のハードルを下げるために、シャフト・プログラムのホームページにおいて、オンライン受講の手順についてまとめた情報を公開した。また、シャフト・プログラムの利用方法や実際のプログラムの支援内容についてのビデオ配信、シャフト・プログラム受講者の体験談の動画の配信を引き続き行っている。

また、個別支援、講座ともに対面での参加も可能とするハイブリッド方式を取ることで、オンラインではなく対面で参加したい受講者のニーズにも応えている。

令和4年度は、他の関係機関などからの紹介でシャフト・プログラム利用につながった者が4名いた。ひきこもりサポートネット、神戸ひきこもり支援室、神奈川県ひきこもりセンター、シングルマザーシスターズフッドなど多様な団体から紹介を受けた。これらの周知・広報の強化や、新たな相談の入口の選択肢の設置などにより、相談窓口の相談者数については、KPIを上回る実績となったと考えられる。

②シャフト・プログラムの受講者数（初回の相談の後、個別相談・講座受講といった支援を継続して受けるために登録した者の数）

シャフト・プログラムの受講者数は、K P I の 60 人に対し 42 人と目標を下回った。相談（K P I ①）から受講（K P I ②）へ移行した割合は、K P I が想定していた 60%に対し、実績では 34.4%であった

令和 3 年度と比較し、令和 4 年度において相談者から受講に繋がった者の割合が下がった要因について 2 つあげられる。

1 つ目は、令和 3 年度は育て上げネットがシャフト・プログラムとは別に、就職をテーマとした期間限定のプログラムを 2 つ並行して実施しており、その利用者層がシャフト・プログラムの対象にもなりうる方々だったことや、シャフト・プログラムで提供するサービスのニーズが当該期間限定プログラムの対象層にもマッチしていたことなどから、本事業への登録・利用を促すことで受講に繋がっていたが、今年度は当該プログラムがすでに終了しており、そこからの受講者の流入が見込めなかったことにある。

2 つ目は、今年度は立川市及び周辺自治体の利用者の掘り起こしに注力したことがあげられる。駅近の施設で対面式の出張相談や会場を確保しての講座開催等を行うことで、市内の利用者の割合を大幅に増やすことにつながった。一方で、支援者によれば、最初から就職に前向きな利用者が多かった令和 3 年度と比べ、障害等により意思疎通が難しい方など様々な属性の方が利用されることとなり、一律な支援が難しい状況が生じた。具体的には、対面での実施により、オンラインに抵抗を感じる方も利用しやすかったが、働くことが目的の相談ではあったものの、精神疾患が強いなど、福祉の優先度が強い相談者が増えた印象だった。どんな相談者でも受け入れるのが基本だが、精神

疾患の症状が強い人については、シャフト・プログラムの受講そのものが難しい人もおり、他のより適切な支援先を紹介した結果、シャフト・プログラムの受講登録に繋がらなかったケースが複数あった。

③就職等進路決定者数

令和4年度の就職等進路決定者数は、45人（実数は36人。昨年度から受講をはじめ、今年度就職が決まった者も含む）であり、KPIの50人の達成には至らなかった。進路決定内訳は正社員、契約社員、スモールビジネス、パート・アルバイト、職業訓練校、B型作業所、リファーとなっている。

上記「②シャフト・プログラムの受講者数」でも分析を行ったとおり、令和4年度は、令和3年度と比べて、育て上げネットが行っていた他の期間限定プログラムからの流入がなくなったこと、立川市及び周辺自治体の相談者の掘り起こしに注力したことの2点から受講者の数が少なかった。母数となる受講者の数により、就職等進路決定者数も伸びなかったと分析される。特に、令和3年度まで実施されていた他のプログラムは、リスクリングや就労意欲が強い利用者が多かったことから、そこから流入する受講者はすぐに就職が決まる傾向にあったが、今年は受講者の層も変わったことから、進路決定に結びつくまでの時間がかかっていることが想定される。

5. シャフト・プログラム3年間の総括

令和2年度から4年度まで実施されたシャフト・プログラムについて、3年間の総括を行う。

(1) K P I の達成状況

シャフト・プログラムの入口に当たる相談窓口の相談者数は、累計目標 250 人に対して 270 人の実績があり、K P I の目標値を上回る結果となった。チラシ、HP、LINE、立川市の広報誌を通じた広報や関係機関との連携により広く周知された結果であるとともに、氷河期世代の支援に対する潜在的な需要の大きさが分かる。

新規相談者のうち、シャフト・プログラムの受講に繋がった者は、累計目標 150 人に対し 128 人の実績であった。令和 3 年の期間においては、シャフト・プログラムと親和性の高い別事業からの受講者の流入が実績を押し上げた。令和 4 年度は当該別事業が終了したこともあり、改めて立川市内の新規利用者を掘り起こすため、駅近の施設で対面式の出張相談や会場を確保しての講座開催等を行い、市内の新規相談者数を大幅に増やすことに繋がった。一方で、就職に前向きな新規相談者が多かった令和 3 年度と比べ、障害等により意思疎通が難しい方など様々な属性の方が利用することとなり、一律な支援が難しい状況が生じたことで、新規受講者の数値が伸び悩んだ。全体を通して、新規相談者の約半数は受講に繋がっており、適切なターゲット層にアプローチ出来ていることが分かる。また、受講に繋がった者のアンケートからは、初回相談の満足度が高く、相談から受講に繋ぐ丁寧な対応を行っていることが分かった。

シャフト・プログラムによる就職等進路決定者数は、累計目標 130 人に対し 98 人の実績であった。全体の K P I が未達成だった理由として、初年度である令和 2 年度は、事業が 11 月に開始し、5 か月間しか実施期間がなかったため、支援が始まってから進路決定まで至る者がほとんどいなかったことが要因と考えられる。K P I は未達成であったものの、全期間を通して、K P I

②の受講者数に対し延べ人数で 74%の進路決定率があり、講座や個別面談による適切な支援が提供されていたことが分かる。

表：令和2年度から令和4年度にかけてのK P I 達成状況の推移

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	累計
K P I ① 相 談窓口の相談 者数	目標	50	100	100	250
	実績	23	116	122	261
K P I ② シ ャフト・プロ グラムの受講 者数	目標	30	60	60	150
	実績	15	67	42	124
K P I ③ 本 事業による就 職等進路決定 者数	目標	30	50	50	130
	実績	3	45	45	93

(2) シャフト・プログラムの利用者の概況

①利用者の属性データ

3年間の利用者の属性データについて総括する。なお、利用者の属性に関する情報は、支援開始時のインテーク、個別相談、利用者アンケートなどから得たものであるが、相談者によっては自己開示について慎重な姿勢の人もいる中で、支援者との信頼関係を丁寧に築きながら確認する必要がある。この

ため、項目によっては、相談者全員について確認がとれていないものもあることに留意が必要である。

年齢は、34歳以下が26人、35～39歳が76人、40歳～44歳が65人、45歳～49歳が64人、50歳以上が28人であり、氷河期世代とされる35歳から55歳にかけての利用者が多くを占めていた。

性別は、男性が87人、女性が173人で女性の方が多い傾向にあった。

学歴は、大学卒業以上が65人であり、学歴について把握できた者の総数のうち29%を占めた。

就労経験について確認できたのは137人。このうち、これまでに就労した経験がある者は132人であり、ほとんどの者が就労経験を有する。過去の雇用形態について明らかなものは、正社員が69人、正社員以外が63人であった。

引きこもりの経験がある者は8人だった。うつ病等のなんらかの精神的な問題を抱えている者は13人、身体的な病気を抱えているものは12人だった。

家庭の状況については、確認できた38人のうち一人暮らしが10人、親と同居が10人、子と同居が3人、配偶者と子と同居が10人、配偶者と同居が4人だった。

②シャフト・プログラムの利用者像の分析

上記のデータを基に、受講者のシャフト・プログラム利用開始時点の状況を個別に分析すると、受講者は大きく5つのグループに分類することができる。

ア) 心身ともに健康であり、正社員としての職歴があるが、子育て等でランクがあり就職活動に不安がある者

- イ) 現在就労中だが、就労を継続すること、または非正規から正規へ転職すること、自分に合った仕事を探すこと、副業をすることを目指している者
- ウ) これまで正規・非正規で継続的に就労してきたが、コロナ禍の景気悪化で失職し、次の就職先を探している者
- エ) 就労経験はあるが、精神的な問題を抱えるなどにより、これまで継続的な就労が難しかった者
- オ) 引きこもりの期間が長く就労経験がない者

このように、利用開始時までの経歴や、独身・シングルマザー・主婦などの属性や家庭環境など、受講者のバックグラウンドが多様であることは、就労のゴールについても多様性をもたらしている。就労へのニーズや必要な収入が個々のバックグラウンドに影響されることが理由である。このため、支援においても、受講者一人ひとりの目線、ペースに合わせた支援が必要である。

また、シャフト・プログラム受講者の特徴について、実施主体である認定NPO 法人育て上げネットが別事業で行っている「地域若者サポートステーション」（主に39歳まで）などを利用している若者世代と比較すると、

- ・すでに就労経験がある者が多いため、自分の好き嫌い、得意不得意といった仕事に対する価値観が明確
- ・年齢が高いため就労機会そのものを得にくい
- ・精神的な障害等により医療を必要としているケースや、自分の困りごとを言語化するのが苦手なケースが若者世代と比較して多く見られる

といったものがあつた。

また、在学中や卒業後すぐに支援を受ける若者と異なり、最終学歴から時間が経過していることから、受講者の間でこれまでの就労経験の有無や仕事のブランクの期間によって置かれている状況が二極化することも、若者就労支援との違いである。

これまでに社会人経験があったり、ブランクの期間が短い受講者は、講座受講に積極的だったり、就職活動に主体的に動ける人が多い。また、専門性、特定の技術を求めている人がスポット的にシャフト・プログラムが提供する講座を受講するケースもあった。特に 40 代の受講者は目的意識が高い人が多く、動画編集、履歴書作成など講座の目的がはっきりしているものが人気があった。

(3) シャフト・プログラムにおける支援

①事業の周知広報

利用者へのアプローチとして、シャフト・プログラムについてのチラシの配布、HP の運用、LINE での周知広報、地域の広報誌への掲載などを行った。HP の閲覧数は、3 年間の事業を通じて合計で 45388pv であり、LINE の登録者数（延べ）は 998 であった。

②初回利用

シャフト・プログラムの初回利用の方法は、初回相談又は登録なしで参加できる講座の受講の 2 通りあった。

初回相談では、認定 NPO 法人育て上げネットの職員が支援者として、支援対象者やその保護者等を対象に、本人の状況や希望を聞きながら、本事業の説明や、相談者の状況に応じて他の支援機関に関する情報提供を行った。

新規利用者がいきなり相談から行うことへの心理的なハードルを下げるため、また 40 代の利用者がスキル系の講座への関心が高かったことから、受講登録が不要な講座を開講し、その参加者への受講の促しも行った。

3年間の事業では、261人に対し相談（初回相談や登録なしに受講できる講座の提供を含む）を実施し、124人が受講者として登録を行った。

③講座

シャフト・プログラムでは、受講中の支援として、講座の提供を行った。3年間で171種類の講座が用意され、計454回開催された。171種類の講座のうち、オンラインのみの講座が135講座、オンラインと対面併用の講座が32講座であった。参加人数は、延べ1433人であった。

講座の種類は、受講者のニーズを反映しながら拡充し、

- ・簿記、電話対応のような事務職に親和性のある講座
- ・ハンドメイド、Web制作、動画編集、ゲームデバッグ、プログラミングなど自分の「好き」を仕事にするための講座
- ・コミュニケーション講座
- ・応募書類の書き方、面接対策講座のような採用試験の対策講座
- ・社会人に対する質問・相談会、職業紹介講座のようなステップアップ・新しい職業観の醸成に資する講座
- ・シミュレーション形式で困ったときの支援先を知る講座
- ・心のスキルアップ講座、マインドフルネス講座など心身・生活の安定を保つ講座

など、利用者のニーズに沿った幅広い分野の講座を実施した。

④個別支援

シャフト・プログラムでは、オンラインのビデオ通話または対面により、一回あたり50分、利用者が個別に1対1で支援者と話すことができる個別相談を行った。

シャフト・プログラムの支援者は、それぞれ就労移行支援事業所や民間職業紹介事業者、大学等で就労支援やキャリアアドバイザーの経験を持っており、シャフト・プログラム以外に地域若者サポートステーションでの支援の経験も有している。

3年間での個別相談の件数は、受講者 187 人に対し、延べ 993 回行われ、ひとりひとりにきめ細やかな支援が行われた。シャフト・プログラムの利用者の特徴として、多様なバックグラウンドに基づく多様な就労へのニーズがある。このため、個々の利用者に合わせたオーダー・メイドかつ個別な伴走支援が重要である。

シャフト・プログラムの受講者には、精神的な問題を抱えているなど講座への参加が直ちには難しい状況の者もいるが、支援者が個別面談を通じて利用者の生活状況や困り事を聞き取るなど、就労に向けての課題や目標を一緒に整理することにより、就労に向けた着実なステップを踏むことができる。

他のプログラムではこのような個別相談の支援がないか、回数が限られていたり、対面での支援に限られていたりするが、シャフト・プログラムではオンラインで利用者の状況に合わせて頻度をカスタマイズして行うことができた。支援者と話すことにより不安を解消する必要性の高い者に対しては頻繁に個別相談を行い、就労中の利用者に対しては1か月に1度程度休日に課題を整理するための個別相談を行うなど、それぞれの利用者の状況にあった支援が行われた。

個別相談について、利用者へのアンケートでは、就職活動について孤独感を抱いている利用者が一定数おり、その人達にとっては個別支援での伴走支援が安心感や就職活動への意欲に繋がり、就労等に繋がっていることが分かった。また、個別支援の中での就職先の選定に関するアドバイスや応募書類の添削などの具体的な就活支援も就労等へ効果的に繋がった。

支援者からは、就職に直接関係のある支援だけではなく、人生や趣味の話ができる話し相手という位置づけで利用者の心の健康をサポートできる点もシャフト・プログラムならではの特徴だという声も聞かれた。特に女性で無業状態にある利用者は、コロナの影響もあり人と話す機会があまりないことから、シャフト・プログラムでの定期的な面談を楽しみにしている人も多かったという。

⑤オンラインによる支援の効果

シャフト・プログラムは、新型コロナウイルス感染症の流行下の令和2年11月に事業を開始した。このため、新型コロナウイルス感染症対策や利用者の利用しやすさ等を踏まえ、オンラインによる支援を積極的に行ってきた。

3年間を通じ、講座の受講や個別相談による利用のほとんどがオンラインで行われ、対面のみを利用を行った者はわずかだった。

オンラインでの支援には、利用者・支援者双方にメリットがあることが分かった。

支援者への聞き取りと、利用者へのアンケートでは、利用者のメリットとして、

- ア) 対面のための移動や、移動に係る交通費が不要
- イ) コロナ禍において、感染リスクを避けることができる
- ウ) 自宅環境から利用できるのも、リラックスしてプログラムを受講することができる
- エ) 他の参加者と合同のセミナーであっても、自分自身はカメラオフ、音声オフで参加することができる
- オ) 発達障害やひきこもりなどで通所が難しい場合でも受講することができる

カ) 隙間時間を活用して参加できるため、育児中や在職中でも参加しやすい

キ) 他県からなど遠方からでも参加することができる

ク) 対面よりもオンラインでのコミュニケーションの方が不安が少なく得意

などが挙げられた。

支援者にとっては、対面参加にはないメリットとして、

ア) 自宅環境から利用するため利用者がリラックスすることにより、自己開示しやすく、より支援しやすい

イ) ぎりぎりまで寝ていても起きてすぐ参加できるなど、参加のハードルが低いので、個別相談や講座受講の急なキャンセルが少ない

ウ) 受講者の急な体調不良などに支援者が対応しやすい

エ) 会場の収容人数の問題がないので、参加予約のメ切を直前に設定でき、利用者にとっては直前まで参加の可否が判断できる

オ) 通所で別の支援機関も利用している人をオンラインでサポートすることができる

などが挙げられた。

具体的にシャフト・プログラムにおけるオンライン支援が効果的だった事例について紹介する。

Dさんは、引きこもり期間が20年以上で、別の引きこもり支援の支援機関を利用中に紹介されてシャフト・プログラムの利用を開始した。対面・訪問型の支援機関とシャフト・プログラムのオンライン支援とをサンドイッチのように組み合わせてサポートすることにより、徐々に行動に前向きになり、電車にのってひきこもり支援の居場所に行けるようになった。現在は一人で居場所に通うことができている。

Eさんは、引きこもり期間が10年以上で、シャフト・プログラムの利用開始時は、近所に買い物に行くのにも極度に緊張をしていたことから、オンラインでの支援であれば参加が可能な状態だった。シャフト・プログラムでオンラインでの講座参加などを続けた結果、ハンドメイド作品をオンラインで出品するスモールビジネスを開始したり、ハンドメイド作品の材料を買うための外出も苦にならなくなったりした。これらをステップとして、支援開始から半年で、通いのアルバイトへの就労に進んだ。

オンラインでの支援については、メリットばかりではなく支援をする上での課題も見られた。支援者によれば、講座の受講が対面であれば、利用者が他者と実際に関わる機会を持たせたり、他者とどのように関わるのかを見て今後の支援に繋げることができるが、そういった機会が持てないという課題があった。また、利用者との関係が1対1になりがちであるという声も聞かれた。来所であれば、インターフォンで他のスタッフとやりとりがあったり、他の支援者の目やそこから見る変化が見えるが、オンラインだと他のスタッフの目が入らないので、支援者として抱え込み過ぎてしまう恐れがあるという。これらの課題に対応するためには、入口のリーチはオンラインのみで行いつつ、その後状況に応じて対面とのハイブリットで支援したり、支援者が一人で抱え込みすぎないように、支援者同士でケース会議をしたり、オンラインで他の支援者が陪席に入ったりすることが必要と考えられる。

⑥関係機関及び周辺自治体との連携

シャフト・プログラムの特徴の一つは関係機関や立川市にとどまらない周辺自治体との連携であり、受託団体である育て上げネットの強みが活かされた。

東京都、周辺自治体、立川市内の公共施設など、公団体との連携は3年間で計64回行われた。具体的には、ハローワーク立川、立川地域ケア会議（立川

市の地域包括支援センター職員が参加)、民生委員評議会(立川市の民生委員が参加)、たかまつ地域包括支援センター、東京ひきこもりサポートネット、稲城市児童青少年課、国立市社会福祉協議会、立川市障害者就労支援センターはたらこなどの機関を訪問し、シャフト・プログラムについて説明、利用者のつなぎなどを依頼した。

中でも東京ひきこもりサポートネットは複数の利用者について連携して支援に当たることとなった。他の支援機関を並行して利用している利用者に対しては、それらの利用状況についても聞いた上でシャフト・プログラムでも助言等をしており、これによりサンドイッチのようにそれぞれの機関の支援を関連付ける形で効果的な支援を行うことができた。

また、シャフト・プログラムがオンラインで支援を提供できることから、他の支援機関には通いで参加し、シャフト・プログラムがオンラインによる個別面談でフォローするという支援の方法も効果的であった。

令和4年度には立川市内の新規利用者へのアプローチに更に力を入れ、立川市産業振興課と連携し、対面での相談ができる駅前出張相談「ちょこっとはたらく相談」を計10回実施したほか、会場とオンラインのハイブリットで参加可能な出張講座

民間企業・団体(業界団体も含む)との情報交換、仕事体験、企業見学、研修の実施は3年間で計21回行われた。立川市内では、株式会社いなげや(スーパーマーケット)や株式会社壽屋(小売(フィギュア等))において、説明会・見学会や職場体験会を実施した。

周知・広報後に実際に利用者がシャフト・プログラムを初回利用する入口についても、令和3年度まではHPからの申し込みまたは登録不要で受講できる講座への参加の2通りに限られていたが、令和4年度からは、対面での相談が

できる出張相談「ちょこっとはたらく相談」と、会場とオンラインのハイブリットで参加可能な出張講座という2通りに入口が増えた。いずれも立川市産業振興課との連携による取り組みである。

出張相談「ちょこっとはたらく相談」は、令和4年5月に取り組みを開始し、毎月第4金曜日に実施、場所は立川駅前の窓口サービスセンターであり、令和4年度は計10回行われた。タイトルを「ちょこっとはたらく相談」にすることで、相談に感じるハードルを低くする狙いがある。実際にほとんどの相談者が「市内にこんなに親身になってもらえる相談機関があることを知らなかった、ありがたい」という感想を述べた。また、出張相談は対面で行われることから、最初の相談をオンラインで行うことに対してハードルを感じていた層に対しても支援が届けられた。この結果、全10回を通して相談に来た人数（実人数）は27人であり、うち立川市の相談者は23人、周辺自治体の相談者は3人だった。

出張講座については、6月27日に「40代からはじめるホームページ作成入門講座」を、12月13日に「「Canva」を使ってデザインしよう ～無料デザインツールの使い方～」を実施した。会場とオンラインとのハイブリット方式で実際し、募集してすぐに定員が満員となった。計33名が申し込みをし、24名が参加した。24名の参加者のうち17名は立川市民であった。）出張講座については、市役所、図書館、市内学習館、子ども未来センター、社会福祉協議会、ボランティア・市民活動センターたちかわ、国立市役所にチラシを配置して広報を行った。

(4) 就職等進路決定の状況

①進路決定の概況

3年間の就職等進路決定者は延べ93人（実人数は73人）であった。受講者124人に対し約半数が何らかの進路決定に結びついた。

93人の業務形態別・進路別の内訳は以下のとおりであった。

- ・起業・個人事業主（いわゆるスモールビジネス） 21人
- ・パート・アルバイト 26人
- ・派遣社員 17人
- ・契約社員 8人
- ・正社員 11人
- ・他機関への紹介（リファー） 6人
- ・職業訓練 3人
- ・その他（B型作業所） 1人

②進路決定者の分析

3年間で進路決定した者（実人数）について、男女比は、女性が48人、男性は25人であり、シャフト・プログラムの利用者全体の傾向と比較するとやや進路決定者における女性の割合が多い。進路決定者の年齢分布は34歳以下は7人、35～39歳は20人、40～44歳は25人、45歳～49歳は16人、50歳以上は3人で、こちらは利用者全体の傾向と概ね同じであり、年齢による進路決定への影響はあまりなかった。

進路決定者の学歴については、大学院卒 1 人、大学院中退 1 人、大卒・短大卒 49 人、大学・短大中退 6 人、高校・専門学校卒 9 人、高校・専門学校中退 3 人、中卒 1 人であり、利用者全体の傾向と大きくは異ならなかった。これまで就いた職歴については、正社員の経験がある者が 44 人、正社員以外の経験がある者が 27 人、職歴なしが 2 人だった。正社員としての就労経験がある者が正社員以外の経験がある者に比して進路決定者に占める割合は、利用者全体の傾向よりも高かった。

支援者によれば、シャフト・プログラム開始時にすぐに就職活動に動けない場合であっても、プログラム開始からおよそ半年を目途に何らかのアクションに移るケースが多かった。利用開始時は自己開示が難しいような場合であっても、半年間かけて支援者との信頼関係ができてくることに加え、利用開始から一定の期間が経過したことにより本人が焦りを感じて行動に移ることなどが要因として挙げられる。シャフト・プログラムでは個別相談に力を入れていることから、次に支援者と面談がある時までには、何か報告事項を作りたいと利用者が思うこともアクションに繋がっている。実際に利用者のアンケートでは、「定期的に面談があり、その間に何か報告するようなことをしなければいけないのがプレッシャーになった」、「面談日に合わせて何か良い報告ができるように頑張りたいと思えるようになったことも、とても有難いと思っている」などの回答があり、いずれも就職に結びついた。支援者も、個別相談が利用者にとって良い刺激となるよう、ある程度支援期間が長くなり、進路決定の準備が整ったと思える利用者に対しては、例えばこれまで隔週だった面談をひと月に 1 回にするなど、間を明けることによい、その間の自発的な進路決定に向けた行動を促すことを心がけたという。

③進路決定後のフォロー

シャフト・プログラムでは、一度就職等進路決定をしてもそこで支援が終了することはなく、その後のフォローアップについても行うこととしている。

シャフト・プログラムの利用者は、進路についても、いきなり正社員としての雇用だけではなく、パート・アルバイトや契約社員などの非正規雇用、またステップとしてのスモールビジネスを開始するケースも少なくない。このため、支援者によれば、利用者は一度進路決定した後も、更に安定した正社員への就職を目指すなど、引き続き支援を必要とする者もいるという。

実際に、利用者へのアンケートでは、就職した者への「次のゴールとして何をを目指すか」という問いに対し、「就職活動を継続する」「正社員を目指す」「安定的な収入を手に入れる」などと回答した者が複数いた。進路決定者の実績を見ても、複数回の進路決定が行われた者が17人おり、正社員就職を目指してスモールステップを踏んでいる者や、自分に合った職場や働き方を目指す者にとっては、進路決定後の継続的な支援が重要と言える。

現在、新型コロナウイルス感染症による影響で、対面での業務や職場での交流が減る中、就職先で孤立を深めやすいと言われている。支援者によれば、シャフト・プログラムでの進路決定者については、その後職場での孤立や人間関係のトラブルなどの課題はなかったという。その要因として、職場環境がよかったということや、自身の特性についてよく理解しており、個別相談による支援を経て、自分に合った進路を選んでいるということが挙げられる。

シャフト・プログラムで進路決定した者についても、実際に、就労が継続しているだけでなく、契約社員から正社員にステップアップしたり、週3から週5に勤務日数が増えるなど、就職等の後も更なる目標を目指して取り組んでいる。

④スモールビジネスがもたらした効果

シャフト・プログラムにおいては、正社員やパート・アルバイトとして雇用される形態の就職に限らず、個人事業主として利益を得て行う活動についても、「スモールビジネス」として進路決定の一つとし、収入拡大や経済的自立、就職のためのステップとして支援を行っている。

「スモールビジネス」について、現時点で決まった定義はないが、シャフト・プログラムにおける「スモールビジネス」の特徴については、令和3年度の利用者の状況を反映すると、①資本金や取引額が小規模、②自身で事業等を営んでいる、③従業員を雇用していない、④実店舗を持つか持たないかは問わない、とすることができる。

3年間の就職等進路決定者73人のうち、スモールビジネスを実施した者は19人だった。行われたスモールビジネスの種類を見ると、①「CrowdWorks」(<https://crowdworks.jp/>) や「mama works」(<https://mamaworks.jp/>) のような業務委託サイトを經由した事務系業務の受託、②「skeb」(<https://skeb.jp/>) や「SUZURI」(<https://suzuri.jp/>)、「twitter」(<https://twitter.com/>)等のサイトやSNSを活用した、イラストやハンドメイド商品の販売、③「mercari」(<https://jp.mercari.com/>) や「ラクマ」(<https://fril.jp/>)等のECサイトを活用した商品販売、などであった。

スモールビジネスがシャフト・プログラムの支援においてもたらした効果について、支援者によると、大きく分けて2つあった。1つ目は、無業からいきなり就労に移行するにはハードルが高い利用者にとってのスモールステップとなるケースである。スモールビジネスで契約や納品等のやりとり、業務管理等の経験を得ながら達成感を重ねていくことにより、就労意欲が湧き、雇用につ

ながることを目指すことができた。2 つ目は、他に本業がある、家計の主な支え手ではない等の理由から、フルタイムでの就業が直ちに必要な状況ではないが、自身の好きなことやスキルアップを達成することにより、収入を増やしたり、自己肯定感が高まったり、精神的な安定により本業を継続するというケースであった。特に後者は、生活していくための安定した収入を得られる就労を目指す若者就労支援とは異なり、シャフト・プログラムならではの特徴といえる。

前者の、スモールビジネスが無業から就労に向けてのスモールステップとなった事例を 2 つ紹介する。Fさんは、シャフト・プログラムの利用開始時点で 10 年以上継続して引きこもりの状態にあった。絵を描くことが好きであることから、支援者の勧めでイラストの委託販売などを行うサイトを活用して絵を販売するスモールビジネスを開始。絵の売上が 1 件成立したことにより、就労に対する意欲が湧いてきたため、就労の支援に移行した。その後、通いで週 4 日のアルバイトとして就労に繋がった。

Gさんは、シャフト・プログラムの利用開始時は無職であり、正社員就職を目指していたが、子育てやご自身の体調不良とフルタイム就職との両立で悩んでいた。シャフト・プログラムで動画編集やハンドメイド等の講座を受講したことや、面談による支援で自身が実現したいことを徐々に整理したことにより、より自身に合った働き方として、正社員でのフルタイム就職を目指すためのステップとして、スモールビジネスを実施することを選んだ。プログラム開始から 9 か月で、開業届を出し、制作したハンドメイド作品の販売やワークショップの実施を行う事業を開始した。

後者の、フルタイムでの就業が直ちに必要な状況ではないが、スモールビジネスによって自身の「好き」やスキルアップを達成することにより、収入を増やしたり、精神的な安定により本業を継続できるという事例についても 2 つ取

り上げる。Hさんは、かつて専門職としてフルタイムで就職していたが、鬱を発症し退職、その後短期間での就職と退職を繰り返し、プログラム開始時は1年間の無業となっていた。シャフト・プログラムでは積極的に多くの講座を受講したが、中でもハンドメイド講座の受講により、ハンドメイド制作に自身の特性を見出した。支援者のサポートもあり、オンラインや実店舗でスモールビジネスとしてハンドメイド作品の販売を始めることとなった。自身の「好き」と実益とを兼ねたスモールビジネスにより精神的にも安定したことで、別の仕事でのパート就労にも挑戦し、9か月以上継続して就労が続いている。

Iさんは、シャフト・プログラム開始時すでに7年間業務委託契約で仕事を継続している状況で、正社員転換の話があったが、条件が現在より良くなる部分と悪くなる部分があるため、今後の雇用条件について迷っていた。支援者との面談で雇用条件について整理をし、正社員になる選択肢だけでなく、現在の業務委託契約の形を続けつつ、副業で収入を拡大する選択肢についても考え始めた。面談による支援により、これまで家族に反対されていたが本当は好きだったイラストやデッサンを再開、SNSでの販売や懸賞付きのコンペへの応募等のスモールビジネスを開始した。スモールビジネスにより、収益が得られることよりも、公開した作品が他者から認められることによる自己肯定感が強まり、職場の不満や家族関係の悩みが解消され、精神的な安定と活力につながった。この結果、現在の就労についても安定につながっている。

なお、令和3年12月に改定された「就職氷河期世代支援に関する行動計画2021」（令和3年12月24日就職氷河期世代支援の推進に関する関係府省会議決定）¹にも、スモールビジネスに関する文章が以下のように盛り込まれた。

¹ 「就職氷河期世代支援に関する行動計画」とは、内閣官房の就職氷河期世代支援推進室が実施する就職氷河期世代支援プログラムを踏まえた具体的な施策について、関係者の連携の

すなわち、就職氷河期世代の中には、長期にわたる不安定就労や無業状態、職場での傷つき等の経験から、就労や社会参加に向けた支援を行う上で、配慮すべき様々な事情を抱える方がおられる。それぞれの方々の当面の目標は、在宅での作業などの様々な働き方を含めた就労や社会的つながりの回復を始めとする社会参加など多種多様であり…（中略）…これまで以上に、一人一人が置かれている「いま」の状況、様々な悩みやニーズを受け止めるという姿勢をより一層浸透させる必要がある。例えば、仕事に人が合わせるという考え方ではなく、事業主が個人の特性に応じた働く場や仕事をつくり出して提供する、あるいは、長く働けなかった子どもとその親と一緒に働ける機会を提供する、オンラインで小規模なビジネスを行う機会を提供するなどといった考え方もある。

つまり、就職氷河期世代の方々が置かれている状況は多様であるからこそ、政府の掲げる「氷河期世代の正規雇用者 30 万人」という目標は、支援の中でいきなり短期的な目標として目指すことがすべての方にとってベストとは限らず、在宅の業務やオンラインでのスモールビジネスなど、多様な働き方や、社会とのつながりを構築するという支援のあり方も大事であることが示されている。

このことは、シャフト・プログラムにおいても同じ経験が言える。これまで見てきたように、シャフト・プログラムの受講者は、若者就労支援の対象者とは異なり、これまでの職歴や無業の期間、家族構成や家計の担い手であるかどうかなどによって、就労へのニーズが多様である。スモールビジネスは、就労へのステップとして、また社会とのつながりを得ることや精神的な支えとしても役割を果たすことができ、正社員就労という目標を補完する重要な要素であると言える。

推進、就労支援、社会参加支援、その他の取組に分けて記載するもの。毎年 12 月を目途に来年度政府予算案などを踏まえた改定を行っている。

また、支援者によれば、個別相談が効果的なケースとして、自分に自信がなく、自分の強みが理解できていない人が、支援者が棚卸を一緒にすることにより、自信がつく場合がある。例えば、過去に自分には向いていないと思って諦めていた職種や役職について、シャフト・プログラムの面談を経て、「今なら挑戦できるかもしれない」と前向きな思いになる利用者もいるという。

上記のとおり、個別相談による支援は、利用者の就職活動を支えるだけでなく、心の健康のサポートや自己肯定感の向上に資することにより、就職等進路決定やその継続に非常に効果的であると評価できる。

6. 次年度以降に向けた提案

上記の令和4年度シャフト・プログラムの実績や支援の効果についての分析・評価を踏まえて、令和5年度以降の立川市就職氷河期世代就労支援事業の実施に向けた提案を行う。

(1) 相談者を増やすために（KPI①関係）

令和4年度の相談者数は122名であり、KPI①を達成した。これについては、ホームページやSNS等による周知、ハローワーク等におけるチラシの配布、関係機関への説明会など昨年度の取り組みに加えて立川市公式LINEでの配信や自治体広報誌における相談会や講座日程の案内、立川市役所における出張相談会を行ったことが功を奏しているといえる。

また、立川市に着目した数々のアプローチは立川市内及び周辺自治体に住む相談者が多くを占めることに少なからず影響をしていると考えられる。

自治体の公式LINE・広報誌の活用や市役所における出張相談会は、地域に住む相談者を増やすために効果的であることが推察される。

本事業は立川市の事業であることから、市民のプログラム利用の増加や立川市内への就労といった立川市への直接的な利益を図ることも重要である。

今年度の取り組みでは、立川市を中心としたアプローチにより、立川市内の相談者だけでなく周辺自治体在住の相談者を誘因することに成功している。立川市周辺の自治体在住の相談者であれば、立川市内の企業に就職する可能性も高いことから、立川市の周辺市も含んだ、自治体、地域の関係機関との連携を強化するとともに市民への周知強化に取り組むことが効果的と考えられる。立川市内への就職がどの程度かについては、データをとることが難しく、どの程度の利用者が市内就職しているかは補足できていないが、周辺自治体からの利用者を増やすことも、就職覚決定者数（K P I ③）を増やすために重要になってくると思われる。

(2) よりよい支援を広げるために（K P I ②関係）

①地域の多様なリソースとの連携

シャフト・プログラムの受講者数は、現時点ではK P I ②を達成していない。これは、昨年度は日本電信電話株式会社（NTT）とKDDI株式会社とが共同で行う「つなぐ×かえるプロジェクト」（<https://tsunagu-kaeru2.jp>）における利用者の相談を受ける「つなぐサポートルーム」や、厚生労働省の「コロナ禍におけるひきこもり・生活困窮者に対するデジタル領域への緊急就労支援事業」として「R-PAC」（<https://public.sodateage.net/imakara/>）という事業を育て上げネットが運営しており、これらの事業の参加者がシャフト・プログラムに参加するケースが多かったが、今年度はこれらの事業がなかったことにあるといえる。

このような事業がない場合であっても、ほかの事業からシャフト・プログラムへの流入を増やすことができるよう、今年度実施した多摩エリアの地域ネットワーク会議などの地域の支援団体等との交流にさらに積極的に参加することも有益であると考えられる。

また、支援者ヒアリングによると市役所での出張相談会は、障害等により意思疎通が難しい方など様々な属性の方が利用することも多く、ほかの支援機関などを紹介した結果、受講につながらないこともあるという。しかしながら、市内周辺自治体の相談者獲得には確実に繋がったことをふまえると、氷河期世代への接点となりうる地元の中学・高校、スーパーマーケット、地域のイベントなどでの広報・連携活動を実施していくことが望ましい。

②利用者への伴走支援

就職氷河期世代は、納得して主体的に次のステップに進むために時間がかかる傾向もある。まずはじっくり話を聞いたうえで、本人が考え方を整理する作業を支援したうえで、相談や講座受講前後の個別相談など伴走支援をきめ細やかに行い、本人の前向きな変化を引き出せるように、長い目で支援を行うことが重要である。

③スモールビジネスの支援

令和4年度においては、スモールビジネスを実施後、何らかの就労に結びついたものが6人いた。支援者からもハンドメイド講座やWEB講座を受講し、自身の作成した作品を販売したことで自信がつき、就職へのモチベーションを上げたものや就職したものもいるとの報告があった。段階を踏んで、就労のステップを踏んでいくことは安定した就労を目指すうえで有用な場合もあることから相談者の状況に応じて、まずは一步目のステップとしてスモールビ

ジネスを引き続き活用できるよう、スモールビジネスに結び付く講座の開発等に取り組んでいくことが期待される。

(3) 利用者に向けた進路決定に向けて (K P I ③関係)

①立川市及び周辺自治体との連携

今年度は、45人（実数は36人）の進路決定があったがKPIの50人には届かなかった。一方で立川市内・立川市周辺自治体の相談者が増えたことは今後、立川市内への就職を増やしていくうえで好材料であるといえる。立川市における就労を増やす観点からも、立川市に加えてその周辺自治体との連携をさらに強化することが重要である。

②立川市及びその周辺地域の団体との連携

今年度行った民間企業・団体との情報交換、仕事体験、企業見学、研修の実施は令和4年度は計21回と令和3年度の2回に比べて大幅に増加した。支援者ヒアリングによると、企業の見学や体験を行うことの利用者側のメリットとしては、未来の就労先が具体的に理解でき、安心することがあげられる。利用者からは「働いている人がみえて、怖くないので応募できる」「業務ができそうかどうか、体験を通じてわかる」「行ってみて通える範囲かどうかわかる」「朝九時からの見学に行けたことで自信がつく。次へのステップになる」といった感想が見られた。また、企業側にとっては「働く前に2,3日体験してもらうことで、本人の人柄、できることがわかる」というメリットもある。就労を増やす観点からも、利用者にとって身近な立川市周辺の経済団体や企業等との連携を強化することも重要である。

(4) 今後の他自治体との連携のあり方について

上記(1)～(3)で見てきたとおり、令和4年度は立川市及び周辺自治体へのアプローチを強化したことにより、駅前相談や出張講座などの相談者へのアプローチ手法や、企業見学や研修など、就労支援の選択肢が強化された。このことから、令和3年度までにシャフト・プログラムに蓄積された、オンラインやスモールビジネスも含めた支援手法のノウハウは活かされつつ、より地域住民に密着した事業へと進化している。

個別相談や講座の提供はオンラインをベースにしつつ、初回相談や他の支援機関、就労先の企業との連携は対面でも実施していく、というハイブリットでの「シャフト・プログラム」は、いわば「立川モデル」として確立されつつあるが、立川市に留まらず、他の地域にも展開できる可能性がある。

例えば立川市と連携する自治体で、実際に窓口を設けて相談を受け、シャフト・プログラムの利用に繋がった方についてはオンラインで支援をし、就労のフェーズでは地域の企業等に繋いでいく、というように、シャフト・プログラムの資源を活用した他自治体との連携事業が想定される。

令和5年度・6年度の継続が決まっている地域就職氷河期世代支援加速化交付金においても、中核となる都道府県や主要市がとりまとめ役となり、複数の市区町村と連携し事業を行う形での実施が想定されている。

就職氷河期世代支援に取り組みたいものの、地域に十分なリソースやノウハウがない自治体も考えられるところ、このような形で支援に乗り出すことができれば、「立川モデル」を活用した全国的な支援に繋がることが期待される。

なお、他の自治体と連携した取組を行う際には、事業の実施を受託する事業者との契約はとりまとめ自治体との間でのみ行う、連携先の自治体からの利用者の増加に備え十分な人員体制を用意するなど、連携によって受託事業者の負担が増加しないような仕組みが必要と考えられる。